W133KOT_(01)_

空気より軽い12A・13Aガス用

住宅用火災(熱式)・
ガス・CO警報器

OSAKA GAS

家庭用

ぴこぴこ®

型番 (4)101-0207 型

取扱説明書 保証書付

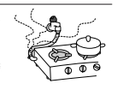
XW-133K 型

- 住宅用火災（熱式）・ガス・CO警報器「ぴこぴこ」をお取り付けいただきありがとうございました。
- この取扱説明書は住宅用火災（熱式）・ガス・CO警報器「ぴこぴこ」の取扱方法を説明します。
- お使いになる前に、この取扱説明書を必ず読んで、内容をご理解した上で取り扱ってください。
- 本取扱説明書は、保証書がついています。取扱説明書はお手元に保管し、いつでもご覧いただけるようにしておいてください。
- 本書を紛失され、内容に不明な点があった場合は、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスにお問い合わせください。
- 本警報器は、炎等の熱を感知して警報を発するものです。火災の発生を未然に防止する装置ではなく、また、火災による損害を防止することを保障するものではありません。火災などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本警報器は、ガスやCOを検知して警報を発するものです。ガスもれや不完全燃焼によるCOの発生を未然に防止する装置ではなく、また、ガスもれやCOによる損害を防止することを保障するものではありません。ガスもれやCOなどによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本警報器は炎等の熱を感知して、警報を発するものです。換気扇等により熱気が吸引され、熱感知部の温度が上昇しない場合は、火災警報機能が働きません。
- 本警報器は、ガスやCOを検知して警報を発するものです。ガス検知部にガスやCOが到達しない場合は、ガス警報機能やCO警報機能が働きません。

警報器の機能について

■ガス警報機能・CO警報機能

警報器周囲のガスやCOが規定濃度以上になると、それを検知して、注意報または警報を発します。



《お断わり》

- ガス検知部にガスやCOが到達しないときは、警報機能が働きません。
- ガスもれや不完全燃焼によるCOの発生を未然に防止する装置ではありません。
  ガスもれやCO発生などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 取付場所近くでのガスもれやCO発生には警報を発しますが、他の部屋で発生したガスやCOには警報を発しないことがあります。

■火災警報機能

火災などにより、警報器周囲の温度が規定温度（約65℃）以上になると、それを感知して警報を発します。

《お断わり》

- 換気扇などにより熱気が吸引され、熱感知部の温度が上昇しないときは、警報機能が働きません。
- 火災の発生を未然に防止する装置ではありません。
  火災などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 警報器を取り付けていない部屋は、火災の監視ができません。

安全上のご注意

ご使用前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ず お守りください。

注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、以下の表示で区分しています。

⚠危険	誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じる場合が想定される」内容を示します。
⚠警告	誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示します。
⚠注意	誤った取り扱いをすると「傷害を負う可能性および物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を示します。

絵表示の内容

- 「必ず行う」事項を示しています。
- 「水ぬれ禁止」事項を示しています。
- 「火気厳禁」事項を示しています。
- 「分解禁止」事項を示しています。
- 「ぬれ手禁止」事項を示しています。
- 「一般的な禁止」事項を示しています。
- 「接触禁止」事項を示しています。

⚠危険

ガス警報音が鳴っている間は、以下の内容を必ず守ってください。
爆発の恐れがあります。

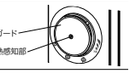
- 必ず行う **ガス警報音が鳴っている部屋にいるときは、すぐに換気をし、使用中のガス機器を止めてください。**
- 火気厳禁 **マッチやライターなど、火気を使わないでください。**
- 禁止 **換気扇、電灯、蛍光灯など、電気製品のスイッチを入・切しないでください。**
- 禁止 **電源プラグを抜かないでください。**
- 禁止 **部屋の外にいるときは、すぐに入室しないでください。**

CO警報器もしくは火災警報音が鳴っている間は、以下の内容を必ず守ってください。
CO濃度が上昇し、短時間で生命に危険が生じる恐れがあります。また、火災により生命に危険が生じる恐れがあります。

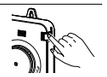
- 必ず行う **CO警報音が鳴っている部屋にいるときは、すぐに換気をし、使用中のガス機器を止めてください。**
- 必ず行う **火災警報音が鳴り、消火が不可能なときは、避難してください。**
- 禁止 **部屋の外にいるときは、すぐに入室しないでください。**

⚠警告

- 必ず行う **常に電源が入っていること（緑（電源）ランプ点灯）を確認してください。**
  電源が入っていないと火災、ガスもれ、COが発生しても、警報を発しません。
- 必ず行う **設置後、5年（有効期限）を過ぎた警報器は、新しい警報器とお取り替えください。**
  誤動作または正常に作動しない恐れがあります。有効期限は、警報器本体に示しています。
- 必ず行う **殺虫剤（くん煙・くん蒸・噴射式）を使用するときは、以下の内容を必ず守ってください。（P.8・9 参照）**
  - 警報器をポリ袋などで覆う。
    誤作動の原因になります。
  - 噴霧が終わったら、換気した後、ポリ袋を取り除く。
    警報器が作動しません。
- 水ぬれ禁止 **警報器や電源プラグを水につけたり、水をかけたりしないでください。**
  感電・ショート・発煙・発火の恐れがあります。
- 分解禁止 **分解や改造はしないでください。**
  故障の原因となります。
- 接触禁止 **ガードの中にある熱感知部にはさわらないでください。**
  火災を感知しなくなる恐れがあります。



- 禁止 **衝撃を与えないでください。**
  故障の原因となります。
- 禁止 **警報器をお手入れするとき以外は、電源プラグを抜かないでください。**
  火災、ガスもれ、COが発生しても、警報を発しません。
- 禁止 **電源コードにステップルや釘などを打たないでください。**
  火災の原因となります。
- 禁止 **ガス検知部は、絶対にふさがないでください。**
  ガスもれまたはCOを検知しなくなります。



- 禁止 **煙感知式住宅用火災警報器に用いられる点検ガスを噴霧しないでください。**
  ガスセンサの故障の原因となります。

電源プラグは、以下の内容を必ず守ってください。
火災・感電・電源プラグ破損の恐れがあります。

- 必ず行う **電源プラグにほこりが付着している場合は、よく拭いてください。**
  火災の原因となります。
- 必ず行う **電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。**
  感電・ショート・発煙・発火や、電源プラグ部分の過熱による焼損の恐れがあります。
- ぬれ手禁止 **ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。**
  感電する恐れがあります。
- 禁止 **警報器の電源プラグに大きな力をかけないでください。**

⚠注意

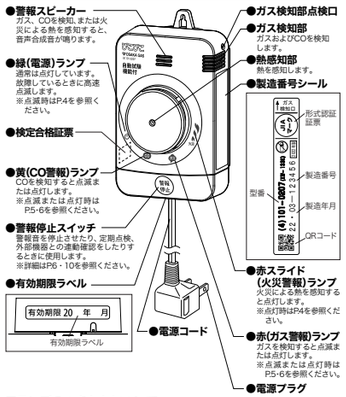
- 必ず行う **警報器をお手入れするときは、必ず電源プラグを抜いてください。**
  感電やけがの原因となります。
- 必ず行う **警報器の取り外し・取り付けを行うときや、警報器をポリ袋で覆うときは、安定した踏み台を使い、十分注意してください。**
  転落・転倒・落下によるけがの恐れがあります。
- 禁止 **取付位置を移動させないでください。**
  警報の遅れの原因となります。
  取付位置を変える必要が生じたときは、販売店にご相談ください。
- 禁止 **警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。**
  警報の遅れの原因となります。
- 禁止 **警報器の近くでラジオなどを使用しないでください。**
  ラジオなどにノイズ（雑音）が入ることがあります。警報器から距離を離してお使いください。
- 禁止 **この商品は検定合格品ですが、消防法で定められた自動火災報知設備には該当いたしませんので、それらの用途には使用できません。**

対象ガス

⚠注意

- この警報器は火災（火災等による熱）、都市ガス（空気より軽い12A・13Aガス）および燃焼排ガス中のCOを検知します。
- 都市ガス（空気より軽い12A・13Aガス）供給区域外ではお使いにならないでください。

各部のなまえとはたらき

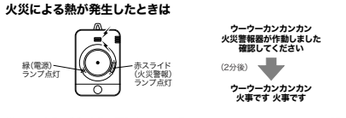


■ランプのつきかたについて
取扱説明書中のランプの点灯、点滅は次のように動作します。

点灯	連続して点灯	
点滅	0.5秒ごとに1回点滅	0.5秒 点滅周期
高速点滅	0.25秒ごとに1回点滅	0.25秒 点滅周期
ゆっくり点滅	3秒ごとに2秒点灯	3秒 点滅周期

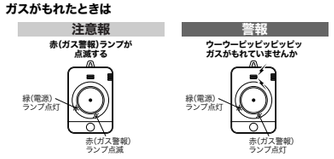
警報器のお知らせ機能について

火災による熱が発生したときは

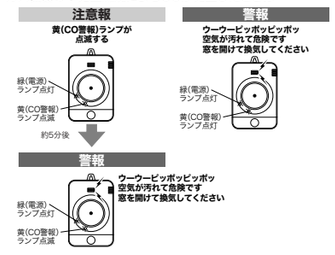


※火災警報とCO警報が同時に成立すると、「ウーウーカンカンカン 火事です 火事です」の警報音となります。

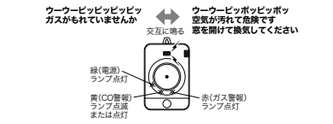
ガスがもれたときは



ガス機器の不完全燃焼によるCOが発生したときは



ガスのもれとガス機器の不完全燃焼によるCOが同時に発生したときは



有効期限が過ぎたときは
有効期限を半年以上過ぎると、緑（電源）ランプがゆっくり点滅します。
※販売店までご連絡ください。

故障しているときは
故障が発生すると、「故障です」が1回鳴り、緑（電源）ランプが高速点滅します。
その後に「ピッピッピッ」と約1分ごとに繰り返し鳴り、約10分ごとに「故障です」が鳴ります。
それ以降も同じ警報を繰り返します。

ただし、警報停止スイッチを押すと、警報音は約36時間停止します。
緑（電源）ランプの高速点滅は止まりません。
※販売店までご連絡ください。
※外部機器と連動している場合、警報音停止中は外部機器の連動動作は停止します。

〈故障診断機能、自動試験機能〉
センサを含めた内部回路が正常であることを常時監視し、故障した場合、自動的に検知し、お知らせします。
※故障診断機能、自動試験機能では、すべての故障は検知できません。

使用方法および設置時の確認

1 電源プラグをコンセントに差し込む。

緑（電源）ランプが点滅し、警報器が監視状態に入る準備状態になります。

2 電源に接続してから約30秒後、ランプが全点灯した後、消灯します。

〈過去約10日以内に警報が作動した場合〉
最後に作動した警報の原因に伴ったランプが、約1秒間点灯します。（鳴動原因表示機能によるものです。）

3 「正常です」と鳴って緑（電源）ランプが点灯し、監視状態に入ります。

〈警報器が故障している場合〉
「正常です」とは鳴らずにP.4上部に記載している故障発生時の動作となります。
※販売店までご連絡ください。

警報器が作動したら

1 『ウーウー カンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください』または『ウーウー カンカンカン 火事です 火事です』と鳴ったときの処置のしかた

【赤スライド(火災警報)ランプが点灯】〈火災警報〉

『ウーウー カンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください』の警報音が約2分間継続すると、または、火災警報とCO警報が同時に成立すると、『ウーウー カンカンカン 火事です 火事です』と警報音が変わります。

1 火元の確認をする。

2 必要な手段をとる。
119番への通報　　初期消火

天ぷら油から炎が出ているときは、ガスメーター近くのメーターガス栓を閉める。
メーターガス栓を開けるときは大阪ガスにご連絡ください。

警報器周囲の温度が規定温度（約65℃）以下になると、警報音が鳴りやみ、赤スライド（火災警報）ランプが消灯します。

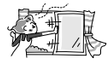
《お断わり》
- 火災以外の熱などで火災警報を発している場合でも、赤（ガス警報）ランプおよび黄（CO警報）ランプの点灯、点滅の有無を確認してください。
  ※火災警報を発している場合は、音声は火災警報が優先されるため、音声によるガス警報およびCO警報は発しません。
- 赤（ガス警報）ランプおよび黄（CO警報）ランプが点滅または点灯している場合は、P.5・6の処置を行ってください。

〈火災以外の熱などで火災警報を発しているとき〉
P.6・7の処置を行ってください。

2 赤（ガス警報）ランプが点滅しているときの処置のしかた

〈ガス注意報〉

1 ドアや窓を開けて換気する。
しばらく換気を続けると、赤（ガス警報）ランプは消灯します。



2 原因を確認する。
ガス濃度がうすい場合に点滅します。
室内の空気の汚れにも反応することがあります。
（P.7参照）

《お断わり》
外部機器と連動している場合、ガス注意報では外部機器は連動動作しません。

3 『ウーウー ピッピッピッピッ ガスがもれていませんか』と鳴ったときの処置のしかた

【赤(ガス警報)ランプが点灯】
〈ガス警報〉

1 ドアや窓を開けて換気する。

2 ガス栓や器具栓を閉める。

3 ガスがなくなれば、警報音が鳴りやむ。
【赤（ガス警報）ランプ消灯】

4 ガスもれの原因を点検する。
原因としては、煮こぼれ、ゴム管の外れ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。

4 黄（CO警報）ランプが点滅しているときの処置のしかた

〈CO注意報〉

1 ドアや窓を開けて換気する。
しばらく換気を続けると、黄（CO警報）ランプは消灯します。

2 原因を確認する。
CO濃度がうすい場合に点滅します。
室内の空気の汚れにも反応することがあります。（P.7参照）

《お断わり》
- 外部機器と連動している場合、CO注意報（黄ランプの点滅のみであり、CO警報音が鳴っていない状態）では、外部機器は連動動作しません。
  ※黄（CO警報）ランプの点滅が約5分間継続すると、「ウーウー ピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」と鳴りはじめます。

5 『ウーウー ピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください』と鳴ったときの処置のしかた

【黄(CO警報)ランプが点滅または点灯】〈CO警報〉

1 ドアや窓を開けて換気する。

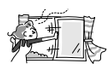
2 ガス機器の使用を中止し、ガス栓や器具栓を閉める。

3 COがなくなれば、警報音が鳴りやむ。
【黄（CO警報）ランプ消灯】

6 『ウーウー ピッピッピッピッ ガスがもれていませんか』と『ウーウー ピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください』が交互に鳴ったときの処置のしかた

【赤(ガス警報)ランプが点灯、黄(CO警報)ランプが点滅または点灯】
〈ガス警報とCO警報の同時警報〉

1 ドアや窓を開けて換気する。



2 ガス機器の使用を中止し、ガス栓や器具栓を閉める。

3 ガスやCOがなくなれば、警報音が鳴りやむ。
【赤（ガス警報）ランプ・黄（CO警報）ランプ消灯】

4 ガスもれやCO発生の原因を点検する。
原因としては、煮こぼれ、ゴム管の外れ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。

2 ガスメーター近くのメーターガス栓を閉める。
メーターガス栓を開けるときは大阪ガスにご連絡ください。

3 ガスやCOがなくなれば、警報音が鳴りやむ。

4 部屋に入り、赤（ガス警報）ランプ・黄（CO警報）ランプの消灯を確認する。

5 ガス栓や器具栓を閉める。

6 ガスもれやCO発生の原因を点検する。
原因としては、煮こぼれ、ゴム管の外れ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。

処置をしても、警報音が鳴りやまないときは

最寄りの大阪ガスへ連絡する。

- たびたび警報音が鳴ったときは、ガス機器の点検を受けてください。（有償）
- ガス機器以外の燃焼機器（石油ファンヒーター、石油ストーブなど）が原因で鳴ることもありますので、これらの機器についても点検を受けてください。

※警報器とマイコンメーターを接続している場合
警報音声が30秒～60秒間鳴り続けたとき、マイコンメーターがガスを止めます。

※警報器と戸外ブザーを接続している場合
警報音声が30秒～60秒間鳴り続けたとき、戸外ブザーが鳴ります。ガスがなくなると同時に鳴りやみます。

8 異常がないのに警報音が鳴ったり、ランプが点滅したときの処置のしかた

ガスやCO以外の空気の汚れで、赤（ガス警報）ランプや黄（CO警報）ランプが点滅したり、警報音が鳴ったときは

〈警報音を止めたいとき〉
警報停止スイッチを押すと、
- 警報音が警報音は1回だけ約5分間止めることができます。
- CO警報は、黄（CO警報）ランプが点滅し、CO警報音が鳴っている場合のみ、警報音を1回だけ約5分間止めることができます。

※警報器周囲の空気の汚れが十分換気できていない場合、停止時間経過後に再び警報音を発します。
※外部機器と連動している場合、警報音停止中は外部機器の連動動作は停止します。
空気の汚れが十分換気できていない場合、停止時間経過後に再び連動します。

1 ドアや窓を開け、しばらく換気を続ける。

2 警報器周囲の空気の汚れがなくなると、ランプの点滅や警報音が止まる。

火災以外の熱で火災警報音が鳴ったときは

〈火災警報音を止めたいとき〉
警報停止スイッチを押してください。警報音が止まります。
- 火災警報音を約5分間止めることができます。

※警報器周囲の熱が規定温度（約65℃）以下になっていない場合は、約5分後に再び火災警報を発します。約5分後に再警報してもスイッチを再度押すことで警報音を止めることができます。
※外部機器と連動している場合、警報音停止中は外部機器の連動動作は停止します。
熱が規定温度（約65℃）以下になっていない場合、停止時間経過後に再び連動します。

1 ドアや窓を開け、しばらく換気を続ける。

2 警報器周囲の温度が規定温度（約65℃）以下になると、ランプの点灯や警報音が止まる。

警報音が鳴ったり、ランプが点滅した原因について

以下の原因が考えられますので、調べてください。

- 長い間閉め切られたお部屋や、高気密住宅などの換気回数が少ないお部屋に設置されている場合、ガスセンサの感度に影響をおよぼす室内の滞留成分（シリコーンや溶剤に含まれる揮発性成分、フロンガス[エアコンの冷媒ガスなど]）の作用により警報が鳴りやすくなることがあります。また、まれに鳴り続けることがあります。
- 建材などから発生する揮発性成分の作用により警報が鳴りやすくなることがあります。また、まれに鳴り続けることがあります。

〈ガス警報・CO警報〉

- スプレー式殺虫剤やヘアスプレーなどを、警報器にかけていませんか。
- タバコの煙を警報器に吹きかけていませんか。
- 芳香剤・香油（アロマオイル）などの濃いガスが警報器にかかっていませんか。
- 線香の煙が警報器にかかっていませんか。
- 溶剤、シンナー、ベンジンなどを大量に使用していませんか。
- アルコール類やくん煙式、くん蒸式の殺虫剤が高濃度になっていませんか。
- フローリングのワックス、溶剤を含む接着剤を使用していませんか。
- 焼き魚の煙などが警報器にかかっていませんか。
- みりんや酢などの調味料成分を含んだ蒸気が、警報器に大量にかかっていませんか。
- 可燃性のガスなどを使用していませんか。
- 警報器の通常の電圧範囲はAC100V±10Vです。それ以外で使用していませんか。
- 換気が十分でない状態で、湯沸器を使用していませんか。
- ガスコンロの着火ミスがありませんか。
- 自動車の排気ガスが室内にこもっていませんか。
- 炭火や練炭を使用していませんか。
- 換気扇を回さずに大鍋（業務用）で湯を沸かしていませんか。点火初期時にCOが発生し、CO警報を発することがあります。
- 警報器を設置した状態で、十分な換気をせずに内装工事（リフォーム含む）を行っていませんか。揮発成分がセンサに影響を与え、誤報を誘発します。また、内装工事（リフォーム含む）を終えた段階でも、十分な換気が行われなかった場合、同様に事象が発生します。

〈火災警報〉

- 調理中の熱がこもっていませんか。
- エアコンなどの空調機器の熱が直接警報器に当たっていませんか。
- 熱感知部が故障している可能性があります。

おねがい

ガスもれやCO発生ではなく、空気の汚れなどにより、赤（ガス警報）ランプ・黄（CO警報）ランプが点滅・点灯したり、警報音声が鳴る場合がありますが、すぐに鳴りやみますので警報器の電源プラグは抜かないでください。

ランプ表示・音声出力の事象一覧表

緑(電源)	黄(CO警報)	赤(ガス警報)	赤スライド(火災警報)	音声内容	事象	対応方法
●	○	○	○	なし	通常動作(監視中)	－
●	○	◎	○	なし	ガス注意報	P.5参照
●	○	●	○	ガス警報音声「ウーウー ピッピッピッピッ ガスがもれていませんか」	ガス警報	P.5参照
●	◎	○	○	なし	CO注意報	P.5参照
●	◎または●	○	○	CO警報音声「ウーウー ピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」	CO警報	P.5参照
●	◎	◎	○	なし	ガス注意報とCO注意報	P.5参照
●	◎	●	○	ガス警報音声「ウーウー ピッピッピッピッ ガスがもれていませんか」	ガス警報とCO注意報	P.5参照
●	◎または●	◎	○	CO警報音声「ウーウー ピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」	CO警報とガス注意報	P.5参照
●	◎または●	●	○	ガス警報音声「ウーウー ピッピッピッピッ ガスがもれていませんか」と、CO警報音声「ウーウー ピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」の交互音声	ガス警報とCO警報	P.5・6参照
高速点滅	○	○	○	故障警報音声「故障です」（10分ごと）「ピッピッピッ」（1分ごと）	故障警報（警報器が故障診断機能、自動試験機能により内部回路異常として故障と判断した状態）	販売店に連絡してください。
△	○	○	○	なし	有効期限切れ（警報器の有効期限が半年以上過ぎた状態）	販売店に連絡してください。
●	○	○	●	火災警報音声「ウーウー カンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください」2分後の音声「ウーウー カンカンカン 火事です 火事です」	火災警報	P.4参照
●	○	◎	●		火災警報とガス注意報	
●	○	●	●		火災警報とガス警報	
●	◎	○	●		火災警報とCO注意報	
●	◎	◎	●		火災警報とガス注意報とCO注意報	
●	◎	●	●		火災警報とガス警報とCO注意報	
●	◎または●	○	●	火災警報音声「ウーウー カンカンカン 火事です 火事です」	火災警報とCO警報	
●	◎または●	◎	●		火災警報とガス注意報とCO警報	
●	◎または●	●	●		火災警報とガス警報とCO警報	

●：点灯、◎：点滅、○：消灯、△：ゆっくり点滅
※故障したときは、上記以外の表示および音声となる場合があります。この場合、販売店にご連絡ください。

お手入れのしかた

1 **電源プラグをコンセントから抜く。**

《お断わり》
外部機器（インターホンなどの集中監視機器）と接続しているときは、警報器の電源プラグを抜くと、外部機器で警報音（故障表示）が鳴ることがあります。

2 **警報器を取り外す。（P.8参照）**

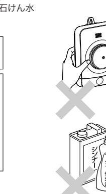
3 **警報器および取付部付近の壁面の汚れをふき取る。**

- 警報器表面・壁面
  布に水または石けん水を浸し、よく絞ってからふき取ってください。
- 電源プラグ
  乾いた布でふき取ってください。

おねがい

- お手入れするときは、警報器の内部に水が入らないように注意してください。

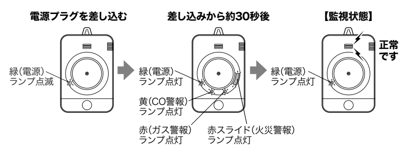
- お手入れするときは、中性洗剤、アルカリ性洗剤、塩素系漂白剤、ベンジン、シンナー、アルコールは使わないでください。
  アルカリ性洗剤などを使うと、警報器本体の表面に傷がついたり、しばらく赤（ガス警報）ランプが点滅したり、警報音が鳴りやまないことがあります。



4 **警報器を取り付ける。（P.8参照）**

5 **電源プラグをコンセントに差し込む。**

- 警報器の電源が入ります。
  緑（電源）ランプが点滅し、約30秒後ランプが全点灯した後消灯し、正常であれば「正常です」と鳴って緑（電源）ランプが点灯に変わり、警報器は監視状態に入ります。
  異常があれば「故障です」と鳴りますので、警報器の交換をお願いします。



〈過去約10日以内に警報が作動した場合〉
電源を入れてから約30秒後ランプが全点灯した後に、最後に作動した警報の原因に伴ったランプが、約1秒間点灯します。（鳴動原因表示機能によるものです。）

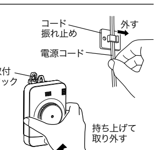
警報器の取り外し・取り付けかた

■取付フックの場合

〈取り外しかた〉

1 **電源コードをコード振れ止めから取り外す。**

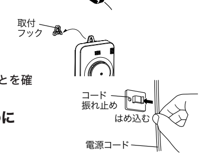
2 **本体を持ち上げて取り外す。**



〈取り付けかた〉

1 **警報器を取付フックに引っ掛ける。**
〈確認〉
警報器が確実に固定されていることを確認してください。

2 **電源コードをコード振れ止めに取り付ける。**

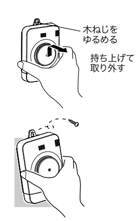


■木ねじの場合

〈取り外しかた〉

1 **電源コードをコード振れ止めから取り外す。**

2 **木ねじをゆるめて警報器を取り外す。**
〈注意〉
強く引っ張ると取り付けている木ねじが抜けたり、木ねじから警報器が外れたりして、落下する恐れがあります。

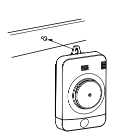


〈取り付けかた〉

1 **警報器を木ねじに引っ掛ける。**

2 **木ねじを締め付けて固定する。**

3 **電源コードをコード振れ止めに取り付ける。**
〈確認〉
警報器が確実に固定されていることを確認してください。



殺虫剤（くん煙・くん蒸・噴射式）を使用するときは

殺虫剤の噴射ガスに反応して警報器が鳴る場合があります。
次の処置を行っていただくと、警報器が鳴り出すのを防ぐ効果があります。

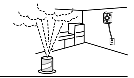
⚠警告

殺虫剤を使用した後は、必ず部屋の換気をし、ポリ袋を外してください。
警報器が作動しません。

電源プラグを抜かないでください。
電源プラグを抜き、警報器をポリ袋で覆わずに殺虫剤を使用すると、噴霧後に再び電源プラグを差し込んだときに警報音が鳴ることがあります。また、外部機器（インターホンなどの集中監視機器）と接続しているときは、警報器の電源プラグを抜くと、外部機器で警報音（故障表示）が鳴ることがあります。

⚠注意

ポリ袋の取り付け・取り外しや警報器の壁面からの取り外し・取り付けは、高いところでの作業になりますので、しっかりした踏み台を使って、十分に注意して行ってください。
転落、転倒、落下の原因になります。



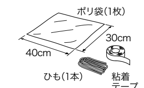
1.警報器をポリ袋で覆う

警報器を取り付けている部屋で殺虫剤を使用するときは、警報器が噴射ガスに反応して警報音が鳴る恐れがありますので、必ず警報器に以下の処置をしてください。

警報器を壁面から取り外して安定した場所に置けるとき

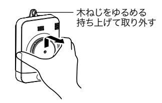
〈準備するもの〉

- ポリ袋（30㎝×40㎝・1枚）
  ポリプロピレン製（PPマークまたは>PP<表示）
- ※ポリエチレン製でも一定の効果があります。
- ひも（1本）
- 粘着テープ

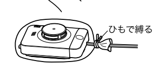


〈処置のしかた〉

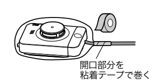
① 警報器を取り外してください。（P.8参照）



②警報器にポリ袋を被せ、袋の口を電源コードの上からひもで縛ってください。



③ポリ袋と電源コードの間にすき間ができないように、ポリ袋の開口部分に粘着テープを巻き付けてください。

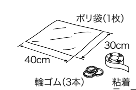


④ポリ袋を傷めないように、警報器を安定するところに置いてください。

警報器を壁面から取り外して安定した場所に置けないとき

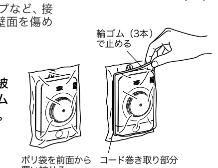
〈準備するもの〉

- ポリ袋（30㎝×40㎝・1枚）
  ポリプロピレン製（PPマークまたは>PP<表示）
- ※ポリエチレン製でも一定の効果があります。
- 輪ゴム（3本）
- 粘着テープ
  養生テープやメンディングテープなど、接着しやすく、またはがすときに壁面を傷めないテープを選んでください。

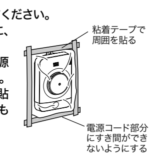


〈処置のしかた〉

① ポリ袋を警報器の前面から覆い被せ、コード巻き取り部分を輪ゴム（3本）でしっかり止めてください。



②ポリ袋の端を粘着テープで壁面に貼り付けてください。
ポリ袋と壁面の間にすき間ができないように、粘着テープを貼ってください。
特に、ポリ袋がしわになっている部分や電源コードが通っている部分に注意してください。
※ 壁面などの状況により、粘着テープでの貼り付けができない場合、①のみの処置でも一定の効果はあります。



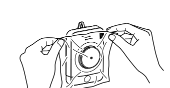
2.殺虫剤を使用する

以下のようなときは、ポリ袋で覆っていても警報音が鳴ることがあります。殺虫剤を使用するときは、事前に住宅管理者やご近所の方に、連絡しておいてください。

- 部屋の広さに比べて、極端に大きな容量の殺虫剤を使用したとき。
  必ず、部屋の広さに応じた容量の殺虫剤をご使用ください。
- 殺虫剤を警報器の真下で使用したとき。
  警報器の真下は避けてください。
- ポリ袋と壁面の間にすき間があったり、ポリ袋に破れや穴があるとき。
- 警報器をポリ袋で覆う前に、石油系溶剤やアルコール類などを使用していたとき。
  ガス検知部に影響を与える成分が封じ込められます。
- 経年変化によって、ガス検知部が敏感になっているとき。

3.ポリ袋を取り外す

噴霧が終わったら、ポリ袋を外してください。警報器を取り外した場合は、元の位置に取り付けてください。



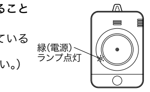
おねがい

粘着テープを外すときは、壁面などを傷めないように慎重に行ってください。

定期点検

日常点検

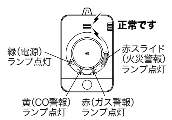
日常、警報器の緑（電源）ランプが点灯していることを確認してください。
※ 緑（電源）ランプが消灯もしくは高速点滅している場合は、販売店に連絡してください。
（P.10「故障かな？と思ったら」を参照ください。）



定期点検

警報器が正常に動作していることを確認するために、警報停止スイッチによる点検を行ってください。

① 警報停止スイッチを約1秒間押すと「ピッ」と鳴り、緑（電源）ランプが点滅します。
②「ピッ」と鳴ったらすぐに手を離す。
③ 全ランプが1秒間点灯し、「正常です」が鳴り、終了します。
※ 過去約10日以内に警報が作動した場合は、全ランプ点灯後に、最後に作動した警報の原因に伴ったランプが、約1秒間点灯します。（鳴動原因表示機能によるものです。）



※ 警報停止スイッチを約3秒以上押した場合、次項の「外部機器との連動確認機能について」の点検内容となりますので、ご注意ください。

外部機器との連動確認機能について

⚠警告

点検をするときは、必ず安定した台に乗って行ってください。
転倒してけがをする恐れがあります。

⚠注意

- **外部機器（マイコンメーター、集中監視盤、インターホン等）が作動しますので、連動確認機能を操作される場合はご注意ください。**
- **マイコンメーターが作動した場合は、所定の復帰操作を行ってください。その他の外部機器が作動した場合は、外部機器の復帰操作を確認していただき、復帰操作を行ってください。**

〈連動確認の操作方法〉

① 警報停止スイッチを約3秒間押すと、「ピッピッ」と開始音が鳴ります。
② 警報停止スイッチから手を離すと以下のように動作することを確認してください。（外部出力信号が1分間※出力されます。有電圧は12Vと18Vが交互に出力されます。火災警報時の信号も同時に出力します。）

動作順	音声内容	ランプ 緑(電源)	黄(CO警報)	赤(ガス警報)	赤スライド(火災警報)	火災出力	有電圧出力(12V ⇔ 18V)
1	「ウーウーカンカンカン 火事です 火事です」	点滅	消灯	消灯	点灯	ON	ON
2	「ウーウーカンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください」	点滅	消灯	消灯	点灯	ON	ON
3	「ウーウーピッピッピッピッ ガスがもれていませんか」	点滅	消灯	点灯	消灯	ON	ON
4	「ウーウーピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」	点滅	点灯	消灯	消灯	ON	ON
5	無音	点滅	点灯	点灯	点灯	ON	ON

（注）上記の動作は連動点検用で、警報時の動作とは異なります。
③ 約1分後に「ピー」と終了音が鳴り、監視状態（緑（電源）ランプ点灯）に戻ります。
※ 1分以内に終了したい場合は警報停止スイッチを押すと「ピー」と鳴り、終了します。

故障かな？と思ったら

こんなときは	ここを確認して	こう処置してください
● 緑(電源)ランプが消灯している。 ● 警報器が正常にもかかわらず、外部機器が鳴る。	電源プラグが抜けていませんか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源ブレーカーが切れていませんか。	ブレーカーを入れてください。
	停電していませんか。	停電でなければ、警報器の故障が考えられますので、販売店に連絡してください。
警報器が温かくなっている。	－	通電により、センサ部を加熱しています。異常ではありません。
緑(電源)ランプが高速点滅している。	警報器の故障を知らせています。	販売店に連絡してください。（機器故障音声機能）
火災、ガスもれ、COの発生ではないのに、赤ランプや黄ランプが点滅・点灯したり、警報音が鳴る。	原因を調べてください。(P.7参照)	ドアや窓を開け、しばらく換気を続けてください。ランプの点滅・点灯や警報音が止まります。 鳴りやまない場合は最寄りの大阪ガスへ連絡してください。
	ガス機器の異常が考えられます。	ガス機器の点検を受けてください。（有償）
	ガス機器以外の燃焼機器の異常が考えられます。	それらの機器も点検を受けてください。
電源を入れたときに、赤ランプや黄ランプが長く点灯する。	10日以内に警報を発していませんか。	鳴動原因表示機能によるもので、故障ではありません。（P.8参照）
緑(電源)ランプがゆっくり点滅している。	警報器の有効期限ラベルに記載の有効期限が切れていませんか。	有効期限が切れていれば、販売店に連絡してください。（P.4参照）

アフターサービスについて

- ■ この警報器は、5年間の無償保証付です。この取扱説明書に書かれている内容を守っていただいた上で警報器が正しく作動しないことが判明した場合には無償でお取り替えいたします。ただし、保証書裏面「5」の項目に該当する場合は、この限りではありません。保証書をご参照ください。
- ■ この警報器の有効期限は、ご使用開始後5年間です。
  有効期限とは警報器の性能を保証できる期間であり、5年を経過したものは、規定のガス濃度で警報しないなど誤作動の恐れがありますので、ぜひ新しい警報器とお取り替えください。
- ■「リース契約書」もしくは「警報器登録票」に販売店（リース取扱店）名の記入のないものは保証内容が無効となることがありますので、お取り付け時にご確認ください。
- ■ アフターサービスについて、ご不明の点がありましたら、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。
- ■ 警報器の有効期限を過ぎたときは、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。
- ■ 作動点検をご希望の場合には、有償にて点検いたします。
- ■ 引越しやお部屋の模様替えなどで警報器を移動される場合は、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。

登録

この警報器は、コンピューターに登録して管理させていただきます。登録は、取り付け時もしくは開栓時に行い、登録済みの警報器の有効期限ラベルには有効期限が記入されていますので、ご確認ください。
また、有効期限の記入がないラベルは未登録の場合がありますので、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスまでご確認ください。
（保証書と有効期限ラベルの期日が異なる場合は、有効期限ラベルの期日が、この警報器の有効期限です。）
有効期限の約1ヵ月前に、登録されているものについては、当社よりお知らせします。有効期限を過ぎた場合は、新しいものとお取り替えください。

廃棄について

〈リース契約の警報器の廃棄〉
有効期限が過ぎた警報器は、販売店（リース取扱店）にて回収いたします。

〈お買い上げいただいた警報器の廃棄〉
お住まいの市町村の廃棄物の処理方法にしたがってください。

仕様

区分	項目			仕様
火災警報機能	種別			定温式住宅用防災警報器
	型式番号			住警第2021～10号
	検知原理			半導体式（サーミスタ使用）
	公称作動温度			65℃
	外部出力信号			警報時a接点ON 無電圧接点容量(DC24V、0.1A) 無極性
	試験機能			自動試験機能
	住宅用防災警報器 検定合格品			
ガス警報機能・CO警報機能	対象ガス			都市ガス（空気より軽い12A・13Aガス用） 燃焼排ガス中のCO
	都市ガス	検知方式		半導体式
		ガス注意報	作動条件	＊爆発下限界濃度の約1/100以上ガス警報濃度以下の都市ガスに対し注意報
			表示・発報方式	赤(ガス警報)ランプ点滅
				警報音無し
		ガス警報	作動条件	＊爆発下限界濃度の1/4の都市ガスに対し60秒以内に警報
			表示・発報方式	赤(ガス警報)ランプ点灯
				音声合成警報音
	燃焼排ガス中のCO	検知方式		電気化学式
		CO注意報	作動条件	300ppmのCOに対し 5分以内に注意報
			表示・発報方式	黄(CO警報)ランプ点滅
				警報音無し
		CO警報	作動条件	550ppmのCOに対し 5分以内に警報
				300ppmのCOに対し 10分以内に警報
			表示・発報方式	黄(CO警報)ランプ点灯または点滅
				音声合成警報音
	外部出力信号			有電圧出力 3段階有電圧2線式
				(監視時 DC6V、電源OFF時・故障診断時 0V、ガス警報時 DC12V、CO警報時DC18V)
	一般財団法人 日本ガス機器検査協会（JIA）都市ガス用ガス警報器検査規程認証合格品			
共通仕様	警報音量			70dB(A)/m以上
	電源			AC100V±10V 50/60Hz
	消費電力			監視時 約0.6W、警報時 約1.4W
	付属機能			通電初期警報防止タイマー付、故障診断機能、有効期限お知らせ機能
	使用温度範囲			0℃～+40℃（結露しないこと）
	寸法・質量			幅85×高さ125×奥行き43.8mm(突起部を除く)、約250g
	電源コード			長さ2.5m（約2.2mは警報器背面に巻取可能）
	付属品			取扱説明書(保証書付)〔本書〕×1、リースシール×1

＊ 爆発は空気とガスの混合割合が一定範囲で起こる可能性があります。その範囲を爆発限界といって、最高濃度を爆発上限界、最低濃度を爆発下限界といいます。
※ マイコンメーターと接続して使用する場合は、警報器アダプターが必要になります。

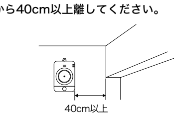
取付位置の確認

⚠注意

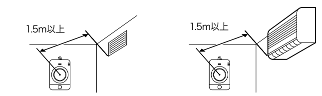
正しい取付位置に取り付けられていることを確認してください。
取り付けてはいけない場所に取り付けられていると、警報の遅れ、誤報、故障の原因となります。

〈正しい取付場所について〉

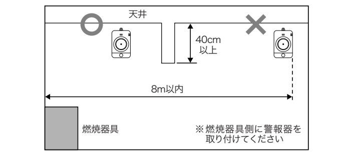
- **ガス、COを検知しようとするガス機器を設置している場所と、同一の室内に取り付けてください。**
- **ガスやCOが滞留しやすい位置で、緑（電源）ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けてください。**
- **ガス、COを検知しようとするガス機器（一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合はガス栓）から、水平距離で8m以内、警報器の底面から天井面までの距離が22～30cmの位置に取り付けてください。**
- **たれ壁やはりから40cm以上離してください。**



- **換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。**

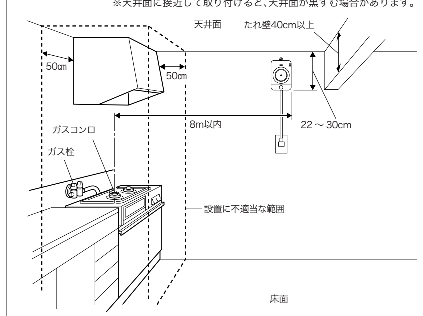


- **天井面が40cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。**



取付例

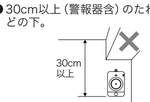
※天井面に接近して取り付けると、天井面が黒ずむ場合があります。



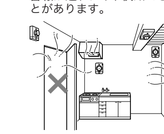
※警報器の取り付けや取付位置の移動は、販売店におまかせください。

〈取り付けてはいけない場所について〉
以下の場所には、絶対に警報器を取り付けないでください。

- レンジフード内やレンジフード本体への取り付け。
  アルコール等で警報することがあります。
- 30cm以上（警報器含）のたれ壁などの下。

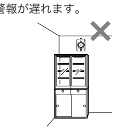


- たれ壁40cm以上で区切られている場所。
- 換気扇、給気口、ドア付近など風通しの良い場所。
- すき間風の入る場所。
- エアコンなどの吹出口に近い場所。
  警報が遅れたり、検知できないことがあります。



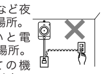
- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。
  センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。

- 食器棚などの上部。
  警報が遅れます。

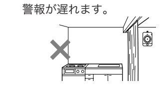


- 業務用・工業用。
  家庭用です。業務用・工業用ではありません。
- 屋外。
  屋外では使用できません。

- ビルの給湯室など夜間電源を切る場所。
- 使用時でないと電源を入れない場所。
  警報器としての機能を果たしません。



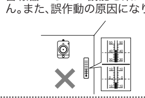
- カーテンウォールなどで仕切られた場所。
  警報が遅れます。



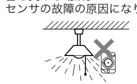
- 振動、衝撃の激しい場所。
  センサの故障の原因になります。

- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所。
  感電や電気的故障の原因になります。

- 温度が0～+40℃の範囲をこえる場所。
  警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。



- 照明器具などから発生する熱の影響を受ける場所。
  センサの故障の原因になります。



- ガス検知口に他の機器などを密着させないでください。
  警報が遅れることがあります。

- ガス機器をご使用のときは、換気にご注意ください。
- お使いになった後は、器具栓だけではなくガス栓も必ず閉めてください。
- ゴム管は、良質の大阪ガス製 マーク入りのものをお使いください。そして、ガス栓についている赤線のところまで深くさし込み、必ずゴム管止めでとめてください。
- お使いにならないガス栓にはゴムキャップをはめてください。
- 古くなったゴム管はお取り替えください。

ガスもれ、CO発生の通報は…

	<行くよ 24 時間>
大阪導管部 〒550－0023 大阪市西区千代崎3丁目南2－37	0120(0)19424
南部導管部 〒590－0973 堺市堺区住吉橋町2－2－19	0120(3)19424
北東部導管部 〒578－8502 東大阪市稲葉2－3－17	0120(5)19424
兵庫導管部 〒650－0046 神戸市中央区港島中町4－5－3	0120(7)19424
京滋導管部 〒600－8815 京都市下京区中堂寺粟田町93	0120(8)19424

インターネットでのお問い合わせやお手続き
大阪ガス 検索 http://www.osakagas.co.jp/

大阪ガスのお問い合わせ先

	<お客さまセンター>
■大阪事務所 〒550－0023 大阪市西区千代崎3丁目南2－37	0120(0)94817
■南部事務所 〒590－0973 堺市堺区住吉橋町2－2－19	0120(3)94817
■北部事務所 〒569－8569 高槻市藤の里町39－6	0120(5)94817
■兵庫事務所 〒650－0044 神戸市中央区東川崎町1丁目8－2	0120(7)94817
■京都事務所 〒600－8815 京都市下京区中堂寺粟田町93	0120(8)94817
□FAXによるお問い合わせ 〒550－0023 大阪市西区千代崎3丁目南2－37	FAX 0120(6)94817

※ 受付時間は、月曜～土曜9:00～19:00、日祝日9:00～17:00となっております。
※ お電話のおかけ間違いのないようお願いいたします。
※ 所在地・電話番号などは変更がある場合がありますので、その節はご容赦願います。

大阪ガス株式会社

空気より軽い12A・13A ガス用

住宅用火災(熱式)
ガス・CO警報器

OSAKA GAS
家庭用

ぴこぴこ®

型番 (4)101-0207 型

取扱説明書 保証書付

YP-772A 型

- 住宅用火災（熱式）・ガス・CO警報器「ぴこぴこ」をお取り付けいただきありがとうございました。
- この取扱説明書は住宅用火災（熱式）・ガス・CO警報器「ぴこぴこ」の取扱方法を説明します。
- お使いになる前に、この取扱説明書を必ず読んで、内容をご理解した上で取り扱ってください。
- 本取扱説明書は、保証書がついています。取扱説明書はお手元に保管し、いつでもご覧いただけるようにしておいてください。
- 本書を紛失され、内容に不明な点があった場合は、販売店(リース取扱店)または、最寄りの大阪ガスにお問い合わせください。
- 本警報器は、炎等の熱を感知して警報を発するものです。火災の発生を未然に防止する装置ではなく、また、火災による損害を防止することを保障するものではありません。火災などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本警報器は、ガスやCOを検知して警報を発するものです。ガスもれや不完全燃焼によるCOの発生を未然に防止する装置ではなく、また、ガスもれやCOによる損害を防止することを保障するものではありません。ガスもれやCOなどによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本警報器は炎等の熱を感知して、警報を発するものです。換気扇等により熱気が吸引され、熱感知部の温度が上昇しない場合は、火災警報機能が働きません。
- 本警報器は、ガスやCOを検知して警報を発するものです。ガス検知部にガスやCOが到達しない場合は、ガス警報機能やCO警報機能が働きません。

警報器の機能について

■ガス警報機能・CO警報機能

警報器周囲のガスやCOが規定濃度以上になると、それを検知して、注意報または警報を発します。

《お断わり》

- ガス検知部にガスやCOが到達しないときは、警報機能が働きません。
- ガスもれや不完全燃焼によるCOの発生を未然に防止する装置ではありません。
  ガスもれやCO発生などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 取付場所近くでのガスもれやCO発生には警報を発しますが、他の部屋で発生したガスやCOには警報を発しないことがあります。

■火災警報機能

火災などにより、警報器周囲の温度が規定温度（約65℃）以上になると、それを感知して警報を発します。

《お断わり》

- 換気扇などにより熱気が吸引され、熱感知部の温度が上昇しないときは、警報機能が働きません。
- 火災の発生を未然に防止する装置ではありません。
  火災などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 警報器を取り付けていない部屋は、火災の監視ができません。

安全上のご注意

ご使用前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。

注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、以下の表示で区分しています。

⚠危険	誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じる場合が想定される」内容を示します。
⚠警告	誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示します。
⚠注意	誤った取り扱いをすると「傷害を負う可能性および物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を示します。

絵表示の内容

- 「必ず行う」事項を示しています。
- 「水ぬれ禁止」事項を示しています。
- 「火気厳禁」事項を示しています。
- 「分解禁止」事項を示しています。
- 「ぬれ手禁止」事項を示しています。
- 「一般的な禁止」事項を示しています。
- 「接触禁止」事項を示しています。

⚠危険

ガス警報音が鳴っている間は、以下の内容を必ず守ってください。
爆発の恐れがあります。

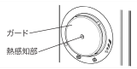
- 必ず行う — ガス警報音が鳴っている部屋にいるときは、すぐに換気をし、使用中のガス機器を止めてください。
- 火気厳禁 — マッチやライターなど、火気を使わないでください。
- 禁止 — 換気扇、電灯、蛍光灯など、電気製品のスイッチを入・切しないでください。
- 禁止 — 電源プラグを抜かないでください。
- 禁止 — 部屋の外にいるときは、すぐに入室しないでください。

CO警報音もしくは火災警報音が鳴っている間は、以下の内容を必ず守ってください。
CO濃度が上昇し、短時間で生命に危険が生じる恐れがあります。また、火災により生命に危険が生じる恐れがあります。

- 必ず行う — CO警報音が鳴っている部屋にいるときは、すぐに換気をし、使用中のガス機器を止めてください。
- 必ず行う — 火災警報音が鳴り、消火が不可能なときは、避難してください。
- 禁止 — 部屋の外にいるときは、すぐに入室しないでください。

⚠警告

- 必ず行う — 常に電源が入っていること（緑（電源）ランプ点灯）を確認してください。
  電源が入っていないと火災、ガスもれ、COが発生しても、警報を発しません。
- 必ず行う — 設置後、5年（有効期限）を過ぎた警報器は、新しい警報器とお取り替えください。
  誤動作または正常に作動しない恐れがあります。有効期限は、警報器本体に示しています。
- 必ず行う — 殺虫剤（くん煙・くん蒸・噴射式）を使用するときは、以下の内容を必ず守ってください。（P.8・9 参照）
  ●警報器をポリ袋などで覆う。
  誤作動の原因になります。
  ●噴霧が終わったら、換気した後、ポリ袋を取り除く。
  警報器が作動しません。
- 水ぬれ禁止 — 警報器や電源プラグを水につけたり、水をかけたりしないでください。
  感電・ショート・発煙・発火の恐れがあります。
- 分解禁止 — 分解や改造はしないでください。
  故障の原因となります。
- 接触禁止 — ガードの中にある熱感知部にはさわらないでください。
  火災を感知しなくなる恐れがあります。



- 禁止 — 衝撃を与えないでください。
  故障の原因となります。
- 禁止 — 警報器をお手入れするとき以外は、電源プラグを抜かないでください。
  火災、ガスもれ、COが発生しても、警報を発しません。
- 禁止 — 電源コードにステップルや釘などを打たないでください。
  火災の原因となります。
- 禁止 — ガス検知部は、絶対にふさがないでください。
  ガスもれまたはCOを検知しなくなります。

- 禁止 — 煙感知式住宅用火災警報器に用いられる点検ガスを噴霧しないでください。
  ガスセンサの故障の原因となります。

電源プラグは、以下の内容を必ず守ってください。
火災・感電・電源プラグ破損の恐れがあります。

- 必ず行う — 電源プラグにほこりが付着している場合は、よく拭いてください。
  火災の原因となります。
- 必ず行う — 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
  感電・ショート・発煙・発火や、電源プラグ部分の過熱による焼損の恐れがあります。
- ぬれ手禁止 — ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
  感電する恐れがあります。
- 禁止 — 警報器の電源プラグに大きな力をかけないでください。

⚠注意

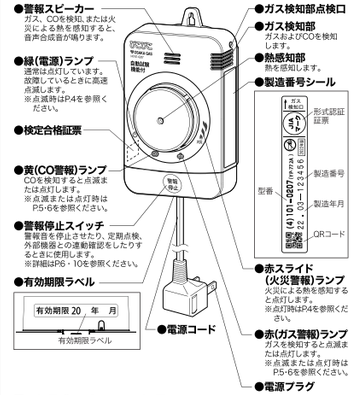
- 必ず行う — 警報器をお手入れするときは、必ず電源プラグを抜いてください。
  感電やけがの原因となります。
- 必ず行う — 警報器の取り外し・取り付けを行うときや、警報器をポリ袋で覆うときは、安定した踏み台を使い、十分注意してください。
  転落・転倒・落下によるけがの恐れがあります。
- 禁止 — 取付位置を移動させないでください。
  警報の遅れの原因となります。
  取付位置を変える必要が生じたときは、販売店にご相談ください。
- 禁止 — 警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。
  警報の遅れの原因となります。
- 禁止 — 警報器の近くでラジオなどを使用しないでください。
  ラジオなどにノイズ（雑音）が入ることがあります。警報器から距離を離してお使いください。
- 禁止 — この商品は検定合格品ですが、消防法で定められた自動火災報知設備には該当いたしませんので、それらの用途には使用できません。

対象ガス

⚠注意

- この警報器は火災（火災等による熱）、都市ガス（空気より軽い12A・13Aガス）および燃焼排ガス中のCOを検知します。
- 都市ガス（空気より軽い12A・13Aガス）供給区域外ではお使いにならないでください。

各部のなまえとはたらき



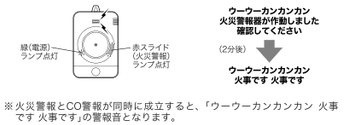
■ランプのつきかたについて

取扱説明書中のランプの点灯、点滅は次のように動作します。

点灯	連続して点灯	
点滅	0.5秒ごとに1回点滅	0.5秒 点滅周期
高速点滅	0.25秒ごとに1回点滅	0.25秒 点滅周期
ゆっくり点滅	3秒ごとに2秒点灯	3秒 点滅周期

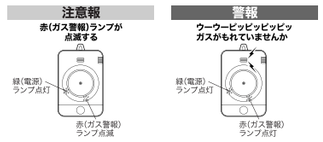
警報器のお知らせ機能について

火災による熱が発生したときは

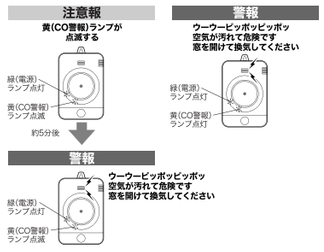


※火災警報とCO警報が同時に成立すると、「ウーウーカンカンカン 火事です 火事です」の警報音となります。

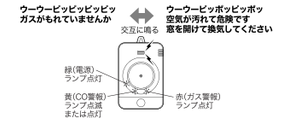
ガスがもれたときは



ガス機器の不完全燃焼によるCOが発生したときは



ガスのもれとガス機器の不完全燃焼によるCOが同時に発生したときは



有効期限が過ぎたときは

有効期限を半年以上過ぎると、緑（電源）ランプがゆっくり点滅します。
※販売店までご連絡ください。

故障しているときは

熱感知部、ガス検知部や警報スピーカーなどの故障が発生すると、「故障です」が1回鳴り、緑（電源）ランプが高速点滅します。その後に「ピッピッピッ」と約1分ごとに繰り返し鳴り、約10分ごとに「故障です」が鳴ります。それ以降も同じ警報を繰り返します。

故障です
その後、約1分ごとに ピッピッピッ
約10分ごとに 故障です

ただし、警報停止スイッチを押すと、警報音は約36時間停止します。
緑（電源）ランプの高速点滅は止まりません。
※販売店までご連絡ください。
※外部機器と連動している場合、警報音停止中は外部機器の連動動作は停止します。
※警報スピーカー故障の場合、故障音は鳴りません。

《故障診断機能、自動試験機能》

センサを含めた内部回路が正常であることを常時監視し、故障した場合、自動的に検知してお知らせします。
※故障診断機能、自動試験機能では、すべての故障は検知できません。

使用方法および設置時の確認

1 電源プラグをコンセントに差し込む。

緑（電源）ランプが点滅し、警報器が監視状態に入る準備状態になります。

2 電源に接続してから約30秒後、ランプが全点灯した後、消灯します。

〈過去約10日以内に警報が作動した場合〉

最後に作動した警報の原因に伴ったランプが、約1秒間点灯します。（鳴動原因表示機能によるものです。）

3 「正常です」と鳴って緑（電源）ランプが点灯し、監視状態に入ります。

〈警報器が故障している場合〉

「正常です」とは鳴らずにP.4上部に記載している故障発生時の動作となります。
※販売店までご連絡ください。

警報器が作動したら

1 『ウーウー カンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください』または『ウーウー カンカンカン 火事です 火事です』と鳴ったときの処置のしかた

【赤スライド(火災警報)ランプが点灯】〈火災警報〉

『ウーウー カンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください』の警報音が約2分間継続すると、または、火災警報とCO警報が同時に成立すると、『ウーウー カンカンカン 火事です 火事です』と警報音が変わります。

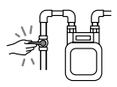
1 火元の確認をする。

2 必要な手段をとる。

119番への通報

初期消火

天ぷら油から炎が出ているときは、ガスメーター近くのメーターガス栓を閉める。
メーターガス栓を開けるときは大阪ガスにご連絡ください。



警報器周囲の温度が規定温度（約65℃）以下になると、警報音が鳴りやみ、赤スライド（火災警報）ランプが消灯します。

《お断わり》

- 火災以外の熱などで火災警報を発している場合でも、赤（ガス警報）ランプおよび黄（CO警報）ランプの点灯、点滅の有無を確認してください。
  ※火災警報を発している場合は、音声は火災警報が優先されるため、音声によるガス警報およびCO警報は発しません。
- 赤（ガス警報）ランプおよび黄（CO警報）ランプが点滅または点灯している場合は、P.5・6の処置を行ってください。

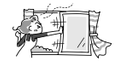
〈火災以外の熱などで火災警報を発しているとき〉

P.6・7の処置を行ってください。

2 赤（ガス警報）ランプが点滅しているときの処置のしかた

〈ガス注意報〉

1 ドアや窓を開けて換気する。
しばらく換気を続けると、赤（ガス警報）ランプは消灯します。



2 原因を確認する。
ガス漏度がうすい場合に点滅します。
室内の空気の汚れにも反応することがあります。
(P.7参照)

《お断わり》
外部機器と連動している場合、ガス注意報では外部機器は連動動作しません。

3 『ウーウー ピッピッピッピッ ガスがもれていませんか』と鳴ったときの処置のしかた

【赤(ガス警報)ランプが点灯】〈ガス警報〉

1 ドアや窓を開けて換気する。

2 ガス栓や器具栓を閉める。

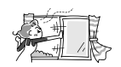
3 ガスがなくなれば、警報音が鳴りやむ。
【赤（ガス警報）ランプ消灯】

4 ガスもれの原因を点検する。
原因としては、煮こぼれ、ゴム管の外れ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。

4 黄（CO警報）ランプが点滅しているときの処置のしかた

〈CO注意報〉

1 ドアや窓を開けて換気する。
しばらく換気を続けると、黄（CO警報）ランプは消灯します。



2 原因を確認する。
CO濃度がうすい場合に点滅します。
室内の空気の汚れにも反応することがあります。(P.7参照)

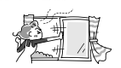
《お断わり》

- 外部機器と連動している場合、CO注意報（黄ランプの点滅のみであり、CO警報音が鳴っていない状態）では、外部機器は連動動作しません。
  ※黄（CO警報）ランプの点滅が約5分間継続すると、「ウーウー ピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」と鳴りはじめます。

5 『ウーウー ピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください』と鳴ったときの処置のしかた

【黄(CO警報)ランプが点滅または点灯】〈CO警報〉

1 ドアや窓を開けて換気する。



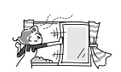
2 ガス機器の使用を中止し、ガス栓や器具栓を閉める。

3 COがなくなれば、警報音が鳴りやむ。
【黄（CO警報）ランプ消灯】

6 『ウーウー ピッピッピッピッ ガスがもれていませんか』と『ウーウー ピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください』が交互に鳴ったときの処置のしかた

【赤(ガス警報)ランプが点灯、黄(CO警報)ランプが点滅または点灯】
〈ガス警報とCO警報の同時警報〉

1 ドアや窓を開けて換気する。



2 ガス機器の使用を中止し、ガス栓や器具栓を閉める。

3 ガスやCOがなくなれば、警報音が鳴りやむ。
【赤（ガス警報）ランプ・黄（CO警報）ランプ消灯】

4 ガスもれやCO発生の原因を点検する。
原因としては、煮こぼれ、ゴム管の外れ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。

5 ガス栓や器具栓を閉める。

6 ガスもれやCO発生の原因を点検する。
原因としては、煮こぼれ、ゴム管の外れ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。

処置をしても、警報音が鳴りやまないときは

最寄りの大阪ガスへ連絡する。

- たびたび警報音が鳴ることは、ガス機器の点検を受けてください。（有償）
- ガス機器以外の燃焼機器（石油ファンヒーター、石油ストーブなど）が原因で鳴ることもありますので、これらの機器についても点検を受けてください。

※警報器とマイコンメーターを接続している場合
警報音声が30秒～60秒間鳴り続けたとき、マイコンメーターがガスを止めます。
※警報器と戸外ブザーを接続している場合
警報音声が30秒～60秒間鳴り続けたとき、戸外ブザーが鳴ります。ガスがなくなると同時に鳴りやみます。

8 異常がないのに警報音が鳴ったり、ランプが点滅したときの処置のしかた

ガスやCO以外の空気の汚れで、赤（ガス警報）ランプや黄（CO警報）ランプが点滅したり、警報音が鳴ったときは

〈警報音を止めたいとき〉
警報停止スイッチを押すと、

- ガス警報の警報音は1回だけ約5分間止めることができます。
- CO警報は、黄（CO警報）ランプが点滅し、CO警報音が鳴っている場合のみ、警報音を1回だけ約5分間止めることができます。

※警報器周囲の空気の汚れが十分換気できていない場合、停止時間経過後に再び警報音を発します。
※外部機器と連動している場合、警報音停止中は外部機器の連動動作は停止します。
空気の汚れが十分換気できていない場合、停止時間経過後に再び連動します。

1 ドアや窓を開け、しばらく換気を続ける。

2 警報器周囲の空気の汚れがなくなると、ランプの点滅や警報音が止まる。

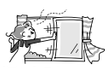
火災以外の熱で火災警報音が鳴ったときは

〈火災警報音を止めたいとき〉
警報停止スイッチを押してください。警報音が止まります。

- 火災警報音を約5分間止めることができます。

※警報器周囲の熱が規定温度（約65℃）以下になっていない場合は、約5分後に再び火災警報を発します。約5分後に再警報してもスイッチを再度押すことで警報音を止めることができます。
※外部機器と連動している場合、警報音停止中は外部機器の連動動作は停止します。
熱が規定温度（約65℃）以下になっていない場合、停止時間経過後に再び連動します。

1 ドアや窓を開け、しばらく換気を続ける。



2 警報器周囲の温度が規定温度（約65℃）以下になると、ランプの点灯や警報音が止まる。

警報音が鳴ったり、ランプが点滅した原因について

以下の原因が考えられますので、調べてください。

- 長い間開められたお部屋や、高気密住宅などの換気回数が少ないお部屋に設置されている場合、ガスセンサの感度に影響をおよぼす室内の滞留成分（シリコーンや溶剤に含まれる揮発性成分、フロンガス［エアコンの冷媒ガスなど］）の作用により警報が鳴りやすくなることがあります。また、まれに鳴り続けることがあります。
- 建材などから発生する揮発性成分の作用により警報が鳴りやすくなることがあります。また、まれに鳴り続けることがあります。

〈ガス警報・CO警報〉

- スプレー式殺虫剤やヘアスプレーなどを、警報器にかけていませんか。
- タバコの煙を警報器に吹きかけていませんか。
- 芳香剤・香油（アロマオイル）などの濃いガスが警報器にかかっていませんか。
- 線香の煙が警報器にかかっていませんか。
- 溶剤、シンナー、ベンジンなどを大量に使用していませんか。
- アルコール類やくん煙式、くん蒸式の殺虫剤が高濃度になっていませんか。
- フローリングのワックス、溶剤を含む接着剤を使用していませんか。
- 焼き魚の煙などが警報器にかかっていませんか。
- みりんや酢などの調味料成分を含んだ蒸気が、警報器に大量にかかっていませんか。
- 可燃性のガスなどを使用していませんか。
- 警報器の通常の電圧範囲はAC100V±10Vです。それ以外で使用していませんか。
- 換気が十分でない状態で、湯沸器を使用していませんか。
- ガスコンロの着火ミスがありませんか。
- 自動車の排気ガスが室内にこもっていませんか。
- 炭火や練炭を使用していませんか。
- 換気扇を回さずに大鍋（業務用）で湯を沸かしていませんか。点火初期時にCOが発生し、CO警報を発することがあります。
- 警報器を設置した状態で、十分な換気をせずに内装工事（リフォーム含む）を行っていませんか。揮発成分がセンサに影響を与え、誤報を誘発します。また、内装工事（リフォーム含む）を終えた段階でも、十分な換気が行われなかった場合、同様に事象が発生します。

〈火災警報〉

- 調理中の熱がこもっていませんか。
- エアコンなどの空調機器の熱が直接警報器に当たっていませんか。
- 熱感知部が故障している可能性があります。

おねがい

ガスもれやCO発生ではなく、空気の汚れなどにより、赤（ガス警報）ランプ・黄（CO警報）ランプが点滅・点灯したり、警報音声が鳴る場合がありますが、すぐに鳴りやみますので警報器の電源プラグは抜かないでください。

ランプ表示・音声出力の事象一覧表

ランプ 緑（電源）	黄（CO警報）	赤（ガス警報）	赤スライド（火災警報）	音声内容	事象	対応方法
●	○	○	○	なし	通常動作（監視中）	－
●	○	◎	○	なし	ガス注意報	P.5参照
●	○	●	○	ガス警報音声「ウーウー　ピッピッピッピッ　ガスがもれています。」	ガス警報	P.5参照
●	◎	○	○	なし	CO注意報	P.5参照
●	○ または ●	○	○	CO警報音声「ウーウー　ピッポッピッポッ　空気が汚れて危険です　窓を開けて換気してください。」	CO警報	P.5参照
●	◎	◎	○	なし	ガス注意報とCO注意報	P.5参照
●	◎	●	○	ガス警報音声「ウーウー　ピッピッピッピッ　ガスがもれています。」	ガス警報とCO注意報	P.5参照
●	○ または ●	◎	○	CO警報音声「ウーウー　ピッポッピッポッ　空気が汚れて危険です　窓を開けて換気してください。」	CO警報とガス注意報	P.5参照
●	○ または ●	○	●	ガス警報音声「ウーウー　ピッピッピッピッ　ガスがもれています。」CO警報音声「ウーウー　ピッポッピッポッ　空気が汚れて危険です　窓を開けて換気してください。」	ガス警報とCO警報	P.5・6参照
高速点滅	○	○	○	故障警報音声「故障です。（10分ごと）「ピッピッピッ」（1分ごと）（**警報スピーカー故障の場合はなし**）	**故障警報（警報器が故障診断機能、自動試験機能により内部回路異常として故障と判断した状態）**	P.4参照
△	○	○	○	なし	有効期限切れ（警報器の有効期限が半年以上過ぎた状態）	P.4参照
●	○	○	●	火災警報音声「ウーウー　カンカンカン　火災警報器が作動しました確認してください。」2分後の音声「ウーウー　カンカンカン　火事です　火事です。」	火災警報	P.4参照
●	○	◎	●		火災警報とガス注意報	
●	○	●	●		火災警報とガス警報	
●	○	○	●		火災警報とCO注意報	
●	◎	◎	●		火災警報とガス注意報とCO注意報	
●	◎	●	●		火災警報とガス警報とCO注意報	
●	○ または ●	○	●		火災警報とCO警報	
●	○ または ●	◎	●	火災警報音声「ウーウー　カンカンカン　火事です　火事です。」	火災警報とガス注意報とCO警報	
●	○ または ●	●	●		火災警報とガス警報とCO警報	

●：点灯、◎：点滅、○：消灯、△：ゆっくり点滅

※故障したときは、上記以外の表示および音声となる場合があります。この場合、販売店にご連絡ください。

お手入れのしかた

1 電源プラグをコンセントから抜く。

《お断わり》
外部機器（インターホンなどの集中監視機器）と接続していると き、警報器の電源プラグを抜くと、外部機器で警報音（故障表示）が鳴ることがあります。

2 警報器を取り外す。（P.8参照）

3 警報器および取付部付近の壁面の汚れをふき取る。

- 警報器表面・壁面
  布に水または石けん水を浸し、よく絞ってからふき取ってください。
- 電源プラグ
  乾いた布でふき取ってください。

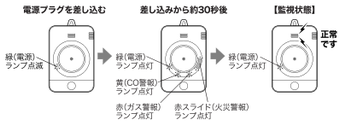
おねがい

- お手入れするときは、警報器の内部に水が入らないように注意してください。
- お手入れするときは、中性洗剤、アルカリ性洗剤、塩素系漂白剤、ベンジン、シンナー、アルコールは使わないでください。
  アルカリ性洗剤などを使うと、警報器本体の表面に傷がついたり、しばらく赤（ガス警報）ランプが点滅したり、警報音が鳴りやまないことがあります。

4 警報器を取り付ける。（P.8参照）

5 電源プラグをコンセントに差し込む。

- 警報器の電源が入ります。
  緑（電源）ランプが点滅し、約30秒後ランプが全点灯した後消灯し、正常であれば「正常です」と鳴って緑（電源）ランプが点灯に変わり、警報器は監視状態に入ります。
  異常があれば「故障です」と鳴りますので、警報器の交換をお願いします。



〈過去約10日以内に警報が作動した場合〉
電源を入れてから約30秒後ランプが全点灯した後に、最後に作動した警報の原因に伴ったランプが、約1秒間点灯します。（鳴動原因表示機能によるものです。）

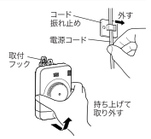
警報器の取り外し・取り付けかた

■取付フックの場合

〈取り外しかた〉

1 電源コードをコード振れ止めから取り外す。

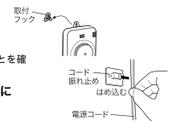
2 本体を持ち上げて取り外す。



〈取り付けかた〉

1 警報器を取付フックに引っ掛ける。
〈確認〉
警報器が確実に固定されていることを確認してください。

2 電源コードをコード振れ止めに取り付ける。



■木ねじの場合

〈取り外しかた〉

1 電源コードをコード振れ止めから取り外す。

2 木ねじをゆるめて警報器を取り外す。
〈注意〉
強く引っ張ると取り付けている木ねじが抜けたり、木ねじから警報器が外れたりして、落下する恐れがあります。

〈取り付けかた〉

1 警報器を木ねじに引っ掛ける。

2 木ねじを締め付けて固定する。

3 電源コードをコード振れ止めに取り付ける。
〈確認〉
警報器が確実に固定されていることを確認してください。

殺虫剤（くん煙・くん蒸・噴射式）を使用するときは

殺虫剤の噴射ガスに反応して警報器が鳴る場合があります。
次の処置を行っていただくと、警報器が鳴り出すのを防ぐ効果があります。

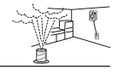
⚠警告

殺虫剤を使用した後は、必ず部屋の換気をし、ポリ袋を外してください。
警報器が作動しません。

電源プラグを抜かないでください。
電源プラグを抜き、警報器をポリ袋で覆わずに殺虫剤を使用すると、噴霧後に再び電源プラグを差し込んだときに警報音が鳴ることがあります。また、外部機器（インターホンなどの集中監視機器）と接続しているときは、警報器の電源プラグを抜くと、外部機器で警報音（故障表示）が鳴ることがあります。

⚠注意

ポリ袋の取り付け・取り外しや警報器の壁面からの取り外し・取り付けは、高いところでの作業になりますので、しっかりした踏み台を使って、十分に注意して行ってください。
転落、転倒、落下の原因になります。



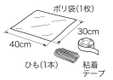
1.警報器をポリ袋で覆う

警報器を取り付けている部屋で殺虫剤を使用するときは、警報器が噴射ガスに反応して警報音が鳴る恐れがありますので、必ず警報器に以下の処置をしてください。

警報器を壁面から取り外して安定した場所に置けるとき

〈準備するもの〉

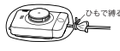
- ポリ袋（30cm ×40cm・1枚）
  ポリプロピレン製（♻または＞PP＜表示）
  ※ポリエチレン製でも一定の効果があります。
- ひも（1本）
- 粘着テープ



〈処置のしかた〉

① 警報器を取り外してください。（P.8参照）

② 警報器にポリ袋を被せ、袋の口を電源コードの上からひもで縛ってください。



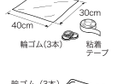
③ ポリ袋と電源コードの間にすき間ができないように、ポリ袋の開口部分に粘着テープを巻き付けてください。

④ ポリ袋を傷めないように、警報器を安定するところに置いてください。

警報器を壁面から取り外して安定した場所に置けないとき

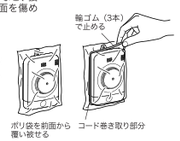
〈準備するもの〉

- ポリ袋（30cm ×40cm・1枚）
  ポリプロピレン製（♻または＞PP＜表示）
  ※ポリエチレン製でも一定の効果があります。
- 輪ゴム（3本）
- 粘着テープ
  養生テープやメンディングテープなど、接着しやすく、またはずすときに壁面を傷めないテープを選んでください。

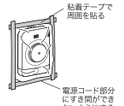


〈処置のしかた〉

① ポリ袋を警報器の前面から覆い被せ、コード巻き取り部分を輪ゴム（3本）でしっかり止めてください。



② ポリ袋の端を粘着テープで壁面に貼り付けてください。
ポリ袋と壁面の間にすき間ができないように、粘着テープを貼ってください。
特に、ポリ袋がしわになっている部分や電源コードが通っている部分に注意してください。
※ 壁面などの状況により、粘着テープでの貼り付けができない場合、①のみの処置でも一定の効果はあります。



2.殺虫剤を使用する

以下のようなときは、ポリ袋で覆っていても警報音が鳴ることがあります。
殺虫剤を使用するときは、事前に住宅管理者やご近所の方に、連絡しておいてください。

- 部屋の広さに比べて、極端に大きな容量の殺虫剤を使用したとき。
  必ず、部屋の広さに応じた容量の殺虫剤をご使用ください。
- 殺虫剤を警報器の真下で使用したとき。
  警報器の真下は避けてください。
- ポリ袋と壁面の間にすき間があったり、ポリ袋に破れや穴があるとき。
- 警報器をポリ袋で覆う前に、石油系溶剤やアルコール類などを使用していたとき。
  ガス検知部に影響を与える成分が付着しているおそれがあります。
- 経年変化によって、ガス検知部が敏感になっていると。

3.ポリ袋を取り外す

噴霧が終わったら、ポリ袋を外してください。
警報器を取り外した場合は、元の位置に取り付けてください。

おねがい

粘着テープを外すときは、壁面などを傷めないように慎重に行ってください。

定期点検

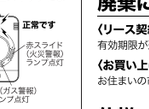
日常点検

日常、警報器の緑（電源）ランプが点灯していることを確認してください。
※ 緑（電源）ランプが消灯もしくは高速点滅している場合は、販売店に連絡してください。
（P.10「故障かな？と思ったら」を参照ください。）

定期点検

警報器が正常に動作していることを確認するために、警報停止スイッチによる点検を行ってください。

① 警報停止スイッチを約1秒間押すと「ピッ」と鳴り、緑（電源）ランプが点滅します。
② 「ピッ」と鳴ったらすぐに手を離す。
③ 全ランプが1秒間点灯し、「正常です」が鳴り、終了します。
※ 過去約10日以内に警報が作動した場合は、全ランプ点灯後に、最後に作動した警報の原因に伴ったランプが、約1秒間点灯します。（鳴動原因表示機能によるものです。）



※ 警報停止スイッチを約3秒以上押した場合、次項の「外部機器との連動確認機能について」の点検内容となりますので、ご注意ください。

外部機器との連動確認機能について

⚠警告

点検をするときは、必ず安定した台に乗って行ってください。
転倒してけがをする恐れがあります。

⚠注意

- **外部機器（マイコンメーター、集中監視盤、インターホン等）が作動しますので、連動確認機能を操作される場合はご注意ください。**
- **マイコンメーターが作動した場合は、所定の復帰操作を行ってください。その他の外部機器が作動した場合は、外部機器の復帰操作を確認していただき、復帰操作を行ってください。**

〈連動確認の操作方法〉

① 警報停止スイッチを約3秒間押すと、「ピッピッ」と開始音が鳴ります。
② 警報停止スイッチから手を離すと以下のように動作することを確認してください。（外部出力信号が1分間*出力されます。有電圧は12Vと18Vが交互に出力されます。火災警報時の信号も同時に出力します。）

動作順	音声内容	ランプ 緑（電源）	黄（CO警報）	赤（ガス警報）	ホスライド（火災警報）	火災出力	有電圧出力（12V ⇔ 18V）
1	「ウーウーカンカンカン 火事です 火事です」	点滅	消灯	消灯	点灯	ON	ON
2	「ウーウーカンカンカン 火災警報器が作動しました確認してください。」	点滅	消灯	消灯	点灯	ON	ON
3	「ウーウーピッピッピッピッ ガスがもれています。」	点滅	消灯	点灯	消灯	ON	ON
4	「ウーウーピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください。」	点滅	点灯	消灯	消灯	ON	ON
5	無音	点滅	点灯	点灯	点灯	ON	ON

（注）上記の動作は連動点検用で、警報時の動作とは異なります。
③ 約1分後に「ピー」と終了音が鳴り、監視状態（緑（電源）ランプ点灯）に戻ります。
※ 1分以内に終了したい場合は警報停止スイッチを押すと「ピー」と鳴り、終了します。

故障かな？と思ったら

こんなときは	ここを確認して	こう処置してください
● 緑（電源）ランプが消灯している。 ● 警報器が正常にもかかわらず、外部機器が鳴る。	電源プラグが抜けていませんか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源ブレーカーが切れていませんか。	ブレーカーを入れてください。
	停電していませんか。	停電でなければ、警報器の故障が考えられますので、販売店に連絡してください。
警報器が温かくなっている。	－	通電により、センサ部を加熱していますので、異常ではありません。
緑（電源）ランプが高速点滅している。	警報器の故障を知らせています。	販売店に連絡してください。（機器故障音声機能）
火災、ガスもれ、COの発生ではないのに、赤ランプや黄ランプが点滅・点灯したり、警報音が鳴る。	原因を調べてください。（P.7参照）	ドアや窓を開け、しばらく換気を続けてください。ランプの点滅・点灯や警報音が止まります。 鳴りやまない場合は最寄りの大阪ガスへ連絡してください。
	ガス機器の異常が考えられます。	ガス機器の点検を受けてください。（有償）
	ガス機器以外の燃焼機器の異常が考えられます。	それらの機器も点検を受けてください。
電源を入れたときに、赤ランプや黄ランプが長く点灯する。	10日以内に警報を発していませんか。	過動原因表示機能によるもので、故障ではありません。（P.8参照）
緑（電源）ランプがゆっくり点滅している。	警報器の有効期限ラベルに記載の有効期限が切れていませんか。	有効期限が切れていれば、販売店に連絡してください。（P.4参照）

アフターサービスについて

- この警報器は、5年間の無償保証付です。この取扱説明書に書かれている内容を守っていただいた上で警報器が正しく作動しないことが判明した場合には無償でお取り替えいたします。ただし、保証書裏面「5」の項目に該当する場合は、この限りではありません。保証書をご参照ください。
- この警報器の有効期限は、ご使用開始後5年間です。
  有効期限とは警報器の性能を保証できる期間であり、5年を経過したものは、規定のガス濃度で警報しないなど誤作動の恐れがありますので、ぜひ新しい警報器とお取り替えください。
- 「リース契約書」もしくは「警報器登録票」に販売店（リース取扱店）名の記入のないものは保証内容が無効となることがありますので、お取り付け時にご確認ください。
- アフターサービスについて、ご不明の点がありましたら、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。
- 警報器の有効期限を過ぎたときは、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。
- 作動点検をご希望の場合には、有償にて点検いたします。
- 引越しやお部屋の模様替えなどで警報器を移動される場合は、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。

登録

この警報器は、コンピューターに登録して管理させていただきます。登録は、取り付け時もしくは開栓時に行い、登録済みの警報器の有効期限ラベルには有効期限が記入されていますので、ご確認ください。
また、有効期限の記入がないラベルは未登録の場合がありますので、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスまでご確認ください。
（保証書と有効期限ラベルの期日が異なる場合は、有効期限ラベルの期日が、この警報器の有効期限です。）
有効期限の約1ヵ月前に、登録されているものについては、当社よりお知らせします。有効期限を過ぎた場合は、新しいものとお取り替えください。

廃棄について

〈リース契約の警報器の廃棄〉
有効期限が過ぎた警報器は、販売店（リース取扱店）にて回収いたします。

〈お買い上げいただいた警報器の廃棄〉
お住まいの市町村の廃棄物の処理方法にしたがってください。

仕様

項目		仕様
火災警報機能	種別	定温式住宅用防災警報器
	型式番号	住警第 2022〜2号
	検知原理	半導体式（サーミスタ使用）
	公称作動温度	65℃
	外部出力信号	警報時a接点ON 無電圧接点容量（DC24V、0.1A） 無極性
	試験機能	自動試験機能
	住宅用防災警報器	検定合格品
ガス警報機能・CO警報機能	対象ガス	都市ガス（空気より軽い12A・13Aガス用） 燃焼排ガス中のCO
	検知方式	半導体式
	都市ガス ガス注意報 作動条件	＊爆発下限界濃度の約1/100以上ガス警報濃度以下の都市ガスに対し注意報
	都市ガス ガス注意報 表示・発報方式	赤（ガス警報）ランプ点滅 警報音無し
	都市ガス ガス警報 作動条件	＊爆発下限界濃度の1/4の都市ガスに対し6〜0秒以内に警報
	都市ガス ガス警報 表示・発報方式	赤（ガス警報）ランプ点灯 音声合成警報音
	燃焼排ガスのCO CO注意報 作動条件	300ppmのCOに対し　5分以内に注意報
	燃焼排ガスのCO CO注意報 表示・発報方式	黄（CO警報）ランプ点滅 警報音無し
	燃焼排ガスのCO CO警報 作動条件	550ppmのCOに対し　5分以内に警報 300ppmのCOに対し　10分以内に警報
	燃焼排ガスのCO CO警報 表示・発報方式	黄（CO警報）ランプ点灯または点滅 音声合成警報音
	外部出力信号	有電圧出力　3段階有電圧2線式 （監視時 DC6V、電源OFF時・故障診断時 0V、ガス警報時 DC12V、CO警報時DC18V）
	一般財団法人 日本ガス機器検査協会（JIA）都市ガス用ガス警報器検査規程認証合格品	
共通仕様	警報音量	70dB(A)/m以上
	電源	AC100V±10V　50/60Hz
	消費電力	監視時　約0.6W、警報時　約0.8W
	付属機能	通電初期警報防止タイマー付、故障診断機能、有効期限お知らせ機能
	使用温度範囲	0℃〜+40℃（結露しないこと）
	寸法・質量	幅85×高さ125×奥行き43.8mm(突起部を除く)、約240g
	電源コード	長さ2.5m（約2.2m は警報器背面に巻取可能）
	付属品	取扱説明書（保証書付）（本書）×1、リースシール×1

＊ 爆発は空気とガスの混合割合が一定範囲で起こる可能性があります。その範囲を爆発限界といって、最高濃度を爆発上限界、最低濃度を爆発下限界といいます。
※ マイコンメーターと接続して使用する場合は、警報器アダプターが必要になります。

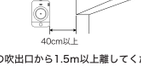
取付位置の確認

⚠注意

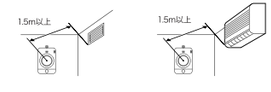
正しい取付位置に取り付けられていることを確認してください。
取り付けてはいけない場所に取り付けられていると、警報の遅れ、誤報、故障の原因となります。

〈正しい取付場所について〉

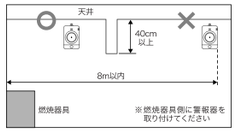
- ガス、COを検知しようとするガス機器を設置している場所と、同一の室内に取り付けてください。
- ガスやCOが滞留しやすい位置で、緑（電源）ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けてください。
- ガス、COを検知しようとするガス機器（一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合はガス栓）から、水平距離で8m以内、警報器の底面から天井面までの距離が22〜30cmの位置に取り付けてください。
- たれ壁やはりから40cm以上離してください。



- 換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。

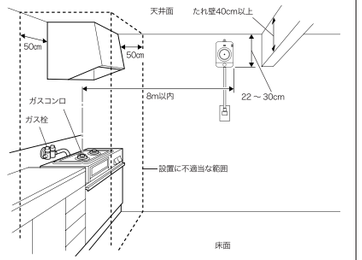


- 天井面が40cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。



取付例

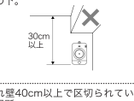
※天井面に接近して取り付けると、天井面が黒ずむ場合があります。



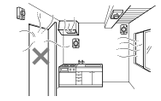
※警報器の取り付けや取付位置の移動は、販売店におまかせください。

〈取り付けてはいけない場所について〉
以下の場所には、絶対に警報器を取り付けないでください。

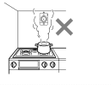
- レンジフード内やレンジフード本体への取り付け。
  アルコール等で警報器をこわします。
- 30cm以上（警報器含）のたれ壁などの下。



- たれ壁40cm以上で区切られている場所。
- 換気扇、給気口、ドア付近など風通しの良い場所。
- すき間風の入る場所。
- エアコンなどの吹出口に近い場所。
  警報器が遅れたり、検知できないことがあります。



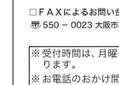
- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。
  センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。



- 食器棚などの上部。
  警報が遅れます。

- 業務用・工業用。
  家庭用です。業務用・工業用ではありません。
- 屋外。
  屋外では使用できません。

- ビルの給湯室など夜間電源を切る場所。
- 使用時でないと電源を入れない場所。
  警報器としての機能を果たしません。



- カーテンウォールなどで仕切られた場所。
  警報が遅れます。

- 振動、衝撃の激しい場所。
  センサの故障の原因になります。

- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所。
  感電や電気的故障の原因になります。

- 温度が0〜+40℃の範囲をこえる場所。
  警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。

- 照明器具などから発生する熱の影響を受ける場所。
  センサの故障の原因になります。

- ガス検知口に他の機器などを密着させないでください。
  警報が遅れることがあります。

- ガス機器をご使用のときは、換気にご注意ください。
- お使いになった後は、器具栓だけではなくガス栓も必ず閉めてください。
- ゴム管は、良質の大阪ガス製♡マーク入りのものをお使いください。そして、ガス栓についている赤線のところまで深くさし込み、必ずゴム管止めでとめてください。
- お使いにならないガス栓にはゴムキャップをはめてください。
- 古くなったゴム管はお取り替えください。

ガスもれ、CO発生の通報は…

大阪導管部　<行くよ 24 時間>
〒550－0023 大阪市西区千代崎３丁目南２－37　0120(0)19424
南部導管部
〒590－0973 堺市堺区住吉橋町２－２－19　0120(3)19424
北東部導管部
〒578－8502 東大阪市稲葉２－３－17　0120(5)19424
兵庫導管部
〒650－0046 神戸市中央区港島中町４－５－３　0120(7)19424
京滋導管部
〒600－8815 京都市下京区中堂寺粟田町93　0120(8)19424

インターネットでのお問い合わせやお手続き
大阪ガス　検索　http://www.osakagas.co.jp/

大阪ガスのお問い合わせ先

■大阪事務所　<お客さまセンター>
〒550－0023 大阪市西区千代崎３丁目南２－37　0120(0)94817
■南部事務所
〒590－0973 堺市堺区住吉橋町２－２－19　0120(3)94817
■北部事務所
〒569－8569 高槻市藤の里町39－６　0120(5)94817
■兵庫事務所
〒650－0044 神戸市中央区東川崎町１丁目８－２　0120(7)94817
■京都事務所
〒600－8815 京都市下京区中堂寺粟田町93　0120(8)94817
□ＦＡＸによるお問い合わせ
〒550－0023 大阪市西区千代崎３丁目南２－37　0120(6)94817

※受付時間は、月曜～土曜9:00～19:00、日祝日9:00～17:00となっております。
※お電話のおかけ間違いのないようお願いいたします。
※所在地・電話番号などは変更がある場合がありますので、その節はご容赦願います。

大阪ガス株式会社

空気より軽い12A･13Aガス用

OSAKA GAS

家庭用

住宅用火災（熱式）・
ガス・CO警報器

ぴこぴこ®

型番 (4)101-0207型

取付説明書【施工される方へ】

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この取付説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。

1 お願いとご注意

警報器を正しく設置していただくため、また、あなたやお客さまへの危害や財産への損害を未然に防止するためにこの取付説明書には、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

2 施工される方へのお願い

- **警報器を更新する場合は、交換前の警報器の電源プラグ部分について以下の確認を行い、お客さまに正しい取扱方法を説明してください。**
  ①電源プラグが曲がっていないか
  曲がっている場合は、電源プラグに大きな力を掛けないようにしていただくことを説明。
  ②電源プラグ部分に水分やほこりがかかっていないか
  電源プラグ部分に水分をかけないこと、ほこりがかかっている場合は取り除いていただくことを説明。
- **取付終了後に取付説明書に従って「6-1　自動初期点検機能の確認」、および必要に応じて「6-2　作動点検」を行ってください。なお、作動不良の場合は交換してください。**
  また、外部機器と連動した場合は、外部機器の取扱説明書、取付説明書に基づいて連動確認をしてください。
- **必要に応じて、「3-1 警報器の説明」「3-2 お客さまへの周知事項」についてお客さまに説明を行い、ご理解を得てください。**
- **警報器を梱包から出された状態で持ち運びまたは保管しないでください。**
- **警報器を設置した状態で十分な換気をせずに内装工事（リフォーム含）を行うと揮発成分がセンサに影響を与え、誤報を誘発します。また内装工事（リフォーム含）を終えた段階でも、十分な換気が行われなかった場合、同様の事象が発生します。**

⚠ 注意

警報器には、落下などの強い衝撃を与えないように、取り扱いには十分に注意してください。
故障や誤作動の原因になります。

3 お客さまへの説明について

3-1 警報器の説明

①警報動作および自動初期点検機能の結果の説明。
　作動点検をした場合は、作動点検の結果の説明。
②取扱説明書を必ず読んでいただくこと、取扱説明書を「警報器登録票」または「リース契約書」とともに保管していただくことのお願い。
③取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
　1.火災警報の内容（赤スライド（火災警報）ランプ点灯、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
　2.ガス警報の内容（赤（ガス警報）ランプ点灯、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
　3.CO警報の内容（黄（CO警報）ランプ点滅･点灯、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
　4.ガス警報、CO警報の同時警報の内容（赤（ガス警報）ランプと黄（CO警報）ランプの点滅･点灯、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
　5.部屋の外にいて、ガス警報、CO警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
　6.誤報が発生する原因と処置の説明。
　7.警報停止スイッチ操作の説明。
　　●警報音停止
　　●定期点検
　　●外部機器との連動点検

3-2 お客さまへの周知事項

①保証期間5年。
②警報器の有効期限のお知らせ。
（本体に貼付の有効期限ラベルに表示）
③保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
④警報器の移設禁止。
（移設依頼時の連絡先）
⑤警報器の分解禁止。
⑥引越時の処置。
⑦故障・異常時の連絡先。
⑧リースの場合、本人または配偶者に契約書の記入をしてもらい、決して子供に記入させないこと。
⑨リース契約の内容および解約時の措置。

4 取り付け前の確認

4-1 警報器の確認

取り付ける警報器が空気より軽い12A･13Aガス用であり、本体、電源コードに異常のないことを確認してください。

4-2 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。

本体…1個	リースシール…1枚
取扱説明書（保証書付）…1枚	

※取り付けには、下記の別売品が必要になる場合があります。
　①新規取付の場合：取付部材セット (4)101-0061
　②外部機器への連動がある場合：接続用リード線 (4)101-0062

4-3 取付位置の確認

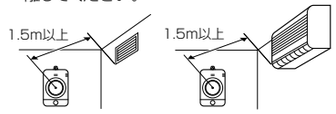
設置場所の選定については、お客さまとよく相談して決めてください。

⚠ 注意

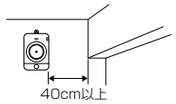
正しい取付位置に取り付けてください。
取り付けてはいけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤報、故障の原因となります。

正しい取付場所について

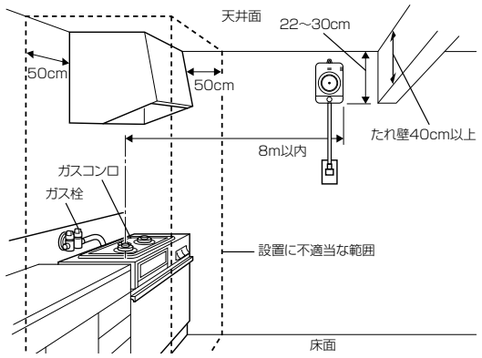
- ガス、COを検知しようとするガス機器を設置している場所と、同一の室内に取り付けてください。
- ガスやCOが滞留しやすい位置で、緑（電源）ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けてください。
- ガス、COを検知しようとするガス機器（一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合はガス栓）から、水平距離で8m以内、警報器の底面から天井面までの距離が22～30cmに取り付けてください。
- 換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。



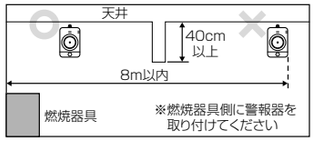
- たれ壁やはりから40cm以上離してください。



■取付例　※天井面に接近して取り付けると、天井面が黒ずむ場合があります。



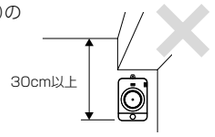
- 天井面が40cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。



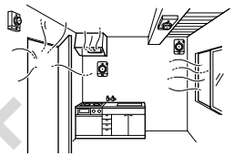
取り付けてはいけない場所について

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けないでください。

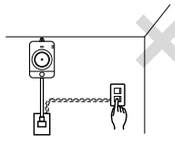
- レンジフード内やレンジフード本体への取り付け。
  アルコール等で警報することがあります。
- 30cm以上（警報器含）のたれ壁などの下。



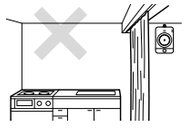
- たれ壁40cm以上で区切られている場所。
- 換気扇、給気口、ドア付近など風通しの良い場所。
- すき間風の入る場所。
- エアコンなどの吹出口に近い場所。
  警報が遅れたり、検知できないことがあります。



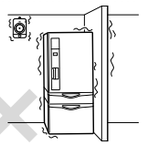
- ビルの給湯室など夜間電源を切る場所。
- 使用時でないと電源を入れない場所。
  警報器としての機能を果たしません。



- カーテンウォールなどで仕切られた場所。
  警報が遅れます。

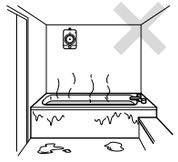


- 振動、衝撃の激しい場所。
  センサの故障の原因になります。

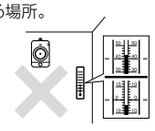


- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。
  センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。

- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所。
  感電や電気的故障の原因になります。

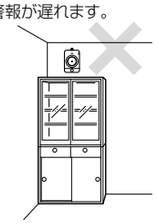


- 温度が0～+40℃の範囲を超える場所。
  警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。

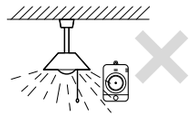


- 屋外。
  屋外では使用できません。
- 業務用･工業用。
  家庭用です。業務用･工業用ではありません。

- 食器棚などの上部。
  警報が遅れます。



- 照明器具などから発生する熱の影響を受ける場所。
  センサ故障の原因になります。

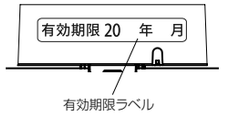


- ガス検知口に他の機器などを密着させないでください。
  警報が遅れることがあります。

5 取り付けかた

5-1 有効期限の記入

この警報器の有効期限は、取り付け後5年間です。
必ず、警報器本体に貼ってある「有効期限ラベル」に、有効期限の年月を記入してください。



5-2 警報器本体の取り付け

⚠ 注意

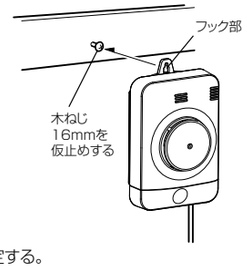
- **取付位置の材質･強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けないでください。**
- **警報器の取付時に、警報器を落とさないように注意してください。**
  センサの断線など、正常に作動しない恐れがあります。
- **本体内にある熱感知部に触れないように作業してください。**
  センサの破壊など、正常に作動しない恐れがあります。
- **ピンや木ねじを指に刺さないように、取り扱いには十分注意してください。**
- **取付強度を保持するため、ピンは根元まで確実に打ち込んでください。**
- **万一、ピンがゆるんだ場合は、取付位置をずらしてピンを付け直してください。**

■取付フックで取り付ける場合（石膏ボード壁専用）

①取付フックの取付位置を決めて、位置決めピンを垂直に打ち込む。
②警報器のフック部を、取付フックに引っかけ、警報器本体が垂直になるように調整する。
③取付フックに固定ピン（左右2箇所）を斜めに打ち込んで固定する。

■木ねじで取り付ける場合

①木ねじ（16mm）を途中までねじ込み、仮止めする。
　※コンクリート壁･石膏ボード壁の場合は、市販のカールプラグ（Φ3.1mm木ねじ用）を打ち込んで木ねじを使用してください。
②電源コードをコンセントまでの長さに合わせて取り出す。
③仮止めした木ねじに、本体のフック部を引っかける。
④木ねじを締め付け、本体を固定する。

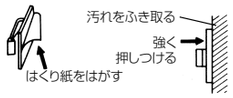


5-3 コード振れ止めの取り付け

⚠注意

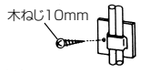
電気設備技術基準および内線規程により、電源コードはステップルや釘などで固定しないでください。
電源コードに重いものを置かないでください。

①コード振れ止めのはくり紙をはがし、壁面に貼り付ける。



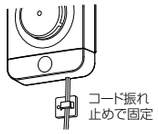
接着だけで取り付けできない場合

木ねじ(10mm)を使用する。



②電源コードをコード振れ止めにはめ込む。

※警報器が電源コードに引っ張られて傾くような場合は、別売のコード振れ止めを警報器のすぐ下に取り付け、いったんコードを真下に引き出して固定してください。
コード振れ止めが接着だけでは弱い場合は、別売の木ねじ(10mm)を使用してください。



5-4 外部機器への連動接続

■外部機器との連動対応表

上段 ○:連動可能、×:連動不可能
下段 警報器が鳴り始めてから、各機器が作動するまでの遅延時間です。遅延時間は外部機器によって異なります。

警報の種類 / 外部出力信号 / 外部機器 / 外部出力端子	警報時の動作	火災警報	ガス警報	CO警報	備考
		無電圧a接点ON	DC12V	DC18V	
		火災警報外部出力用リード線(赤・赤)	ガス警報、CO警報外部出力コネクター(白・灰)		
みるびこ・大阪ガス セキュリティパートナータイプAアイルス・タイプB	監視センターへ自動通報する ※1	○	○	○	遠隔にてガス遮断
マイコンメーター	ガスを止める	× ※2	○ ※3 30秒～60秒以内	○ ※3 30秒～60秒以内	
戸外ブザー((4)001-0011)	警報音が鳴る	× / —	○ 30秒～60秒以内	○ 30秒～60秒以内	ガス警報、CO警報用
リモートマイコンシステム(業務用)	ガスを止める	× / —	○ 30秒～60秒以内	○ 30秒～60秒以内	他の安全システムへの中継機能
業務用連動遮断システム	ガスを止める	× / —	○ 30秒～60秒以内	○ 30秒～60秒以内	
ホームモニター	機種により異なりますので、各ホームモニターメーカーにお問い合わせください。				
集中監視盤	機種により異なりますので、各集中監視盤メーカーにお問い合わせください。				※4
フラッシュアラーム	機種により異なりますので、各フラッシュアラームメーカーにお問い合わせください。				

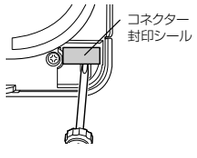
※1 必要な場合は、遠隔操作でガスを遮断し、大阪ガスあるいはOSS(大阪ガスセキュリティサービス)の係員が出動し、緊急対応します。
※2 お客さまの希望により、火災警報時にマイコンメーター連動遮断させる場合は、大阪ガスにお問い合わせください。
※3 別途、警報器アダプター((4)101-0060)が必要です。(別売部品)
※4 本警報器は消防法上の火災警報設備の検知器として使用できません。

●ホームモニター・集中監視盤・フラッシュアラームに関する内容は、各メーカーにお問い合わせください。
●上記表内以外の外部機器に関する内容は、大阪ガスにお問い合わせください。

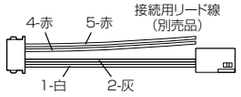
〈ご注意〉
1. ガス警報、CO警報出力(コネクター)は有電圧出力ですので、外部機器と連動する場合は極性に注意してください。
2. 複数の外部機器を連動する場合は、大阪ガスへご相談ください。
3. 外部機器は専用品をお使いください。(ホームモニター・集中監視盤・フラッシュアラームを除く)

外部機器と連動する場合の注意点および点検方法

●外部機器と接続する場合。
①凹部分にマイナスドライバーなどを差し込み、コネクター封印シールを外してください。
※コネクターを傷つけないよう注意してください。



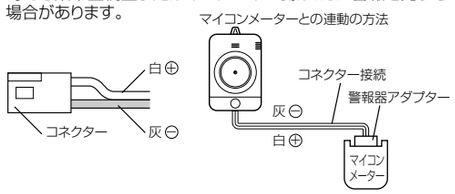
②別売の接続用リード線を本体のコネクターへしっかりと差し込んでください。
別売品型式:(4)101-0062



外部出力信号	リード線No.	リード線の色(極性)
無電圧接点出力	4-5	赤 赤
ガス警報、CO警報出力	1-2	白(+)灰(−)

●下記の場合は、外部機器の取扱説明書ならびに取付説明書に基づいて連動点検を必ず実施し、外部機器が正常に作動することを確認してください。
①新たに警報器を外部機器と連動する場合。
②警報器を交換する場合。
③外部機器を取り付け・交換する場合。
④配線を修理・交換する場合。
実施しなかった場合、外部機器が正常に作動しない恐れがあります。
●警報器の外部出力が必要な場合は、次項の「外部機器との連動点検」または、「6-2 作動点検」に基づいて行ってください。
●集中監視盤またはインターホンなどと連動した場合、CO警報時でも集中監視盤またはインターホン側は、ガス警報を発する場合があります。

マイコンメーターとの連動の方法



外部機器との連動点検

①警報停止スイッチを約3秒間押すと、「ピッピッ」と開始音が鳴ります。(緑(電源)ランプが点滅を開始)
その後警報停止スイッチを離すと外部出力信号が1分間出力されます。(有電圧は12Vと18Vが交互に出力されます。火災警報時の信号も同時に出力します。)

②以下の動作を行います。

動作順	音声内容	ランプ 緑(電源)	ランプ 黄(CO警報)	ランプ 赤(ガス警報)	ランプ 赤スライド(火災警報)	火災出力	有電圧出力(12V⇔18V)
1	「ウーウーカンカンカン 火事です 火事です」	点滅	消灯	消灯	点灯	ON	ON
2	「ウーウーカンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください」	点滅	消灯	消灯	点灯	ON	ON
3	「ウーウーピッピッピッピッ ガスがもれていませんか」	点滅	消灯	点灯	消灯	ON	ON
4	「ウーウーピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」	点滅	点灯	消灯	消灯	ON	ON
5	無音	点滅	点灯	点灯	点灯	ON	ON

(注)上記の動作は連動点検用で、警報時の動作とは異なります。警報時の動作は取扱説明書を参照してください。

③約1分後に「ピー」と終了音が鳴り、監視状態(緑(電源)ランプ点灯)に戻ります。

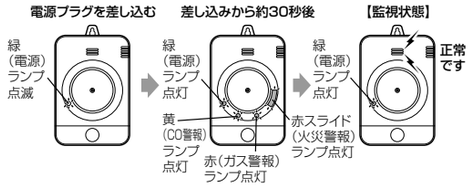
〈1分以内に点検を終えたいとき〉
上記の動作中に警報停止スイッチを押すと、「ピー」と鳴り、終了します。

6 取り付け後の確認・点検

この警報器は、通電開始後の約30秒間でセンサを含めた内部回路が正常であることを確認する自動初期点検機能を有しています。
製造から取付まで1年以内の警報器(警報器の製造番号シールに記載の製造年月から取付年月までが1年後の同月まで)で以下の条件を満たす場合は、「6-2 作動点検」は不要です。「6-1 自動初期点検機能の確認」のみを行ってください。
ただし、お客さまから要望があった場合は、「6-2 作動点検」を行ってください。
●新規取付時(未入居の新築住宅を含む)
●更新時
以下の場合は、「6-2 作動点検」が必要です。「6-1 自動初期点検機能の確認」の後に「6-2 作動点検」を行ってください。
●製造から取付までが1年を超えた警報器

6-1 自動初期点検機能の確認

電源プラグをコンセントに差し込む。
緑(電源)ランプが点滅し、約30秒後にランプが全点灯した後、正常であれば、「正常です」と鳴って緑(電源)ランプが点灯に変わり、警報器は監視状態に入ります。
万一、異常があれば、「故障です」と鳴りますので、警報器の交換をお願いします。
※赤(ガス警報)ランプが点滅することがありますが、しばらくすると消灯します。



・緑(電源)ランプが点滅中は作動点検を実施しないでください。

6-2 作動点検

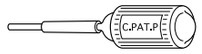
おねがい

この警報器は作動点検をスムーズに行うため、監視状態に移行後3分30秒間(電源プラグをコンセントに差し込んでから4分間)に限り、採取ガスに対して反応しやすい状態が保持されます。必ずその間に作動点検を行ってください。ただし、通電開始後の緑(電源)ランプが点滅している間(30秒間)は、ガスをかけてもセンサが反応せず、警報を発しないため、作動点検を行わないでください。
上記時間を過ぎると、採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されます。その場合は電源プラグを一度抜き、再度コンセントに差し込み直してから行ってください。
また、上記時間内であっても一度作動点検を行うと、採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されますので、ご注意ください。
通電開始後の緑(電源)ランプが点滅している間や、点灯に変わる際に火災警報機能の点検を行った場合、約30秒経過しても「正常です」が鳴らず、点検ガスに対して反応しやすい状態に移行しない場合があります。

〈準備するもの〉

●点検ガス採取器(別売品)
●ガスライター
上記2点または、
●火災・CO・ガスもれ警報点検治具
(別売品:TTO-11)

点検ガス採取器
(部品番号:410101010100)



⚠注意

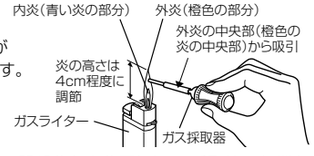
アルコールを主成分とした点検ガスおよびライター式の点検ガス(生ガス)は、使用しないでください。
センサ異常またはセンサ故障の原因になったり、警報状態からの復帰に大変時間がかかることがあります。

〈点検ガス採取器を用いて点検する場合〉

ガス警報機能とCO警報機能の同時点検

①ガスライターを点火し、炎の高さを約4cmに調節する。

おねがい
炎が小さいとガスが採取しにくくなります。



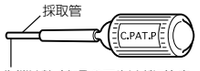
②点検ガス採取器の容器部分を十分圧縮して、採取管の先端を炎の外炎の中央部へ持っていく。
③容器の圧縮をゆっくり(約3秒)ゆるめ、炎の中からガス成分を吸引する。

おねがい
長時間加熱すると、ガス採取器が破損することがありますので注意してください。

④点検ガスの採取が終わったら、速やかに点検ガス採取器を炎から離し、ガスライターの炎を消す。

⚠注意

炎から出した直後の採取管は、先端が非常に熱くなっています。絶対に触らないでください。
やけどをする恐れがあります。



⑤採取管の先端部分の温度が下がるまで(約30秒)待つ。
⑥採取管の先端部分を警報器の点検口にしっかり押し当てて、容器を圧縮し、採取したガスをゆっくり(約3秒)注入する。

⚠警告

採取したガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。
直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

⑦赤(ガス警報)ランプが点灯し、ガス警報音「ウーウーピッピッピッピッ ガスがもれていませんか」が鳴り、黄(CO警報)ランプが点灯し、CO警報音「ウーウーピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」が鳴ります。
吹きかけのタイミングにより、ガス警報とCO警報の順番が逆になったり、交互に鳴る場合があります。

⑧ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯します。

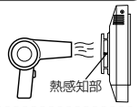
※電源を入れて(電源プラグをコンセントに差し込んで)から4分間は、有電圧出力が一度出力されると、ガスがなくなり監視状態に戻っても出力が保持されます。この間に警報停止スイッチを押しても出力は解除されません。電源投入から4分間が経過しますと通常の状態に戻ります。
火災警報外部出力に保持機能はありません。また外部機器の作動を解除するときは、いったん電源プラグをコンセントから抜いてください。

おねがい

警報音が鳴りやまない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて再度「6-1 自動初期点検機能の確認」を行ってください。

火災警報機能の点検

①ヘアドライヤーの吹出口を、警報器の熱感知部に垂直に当てる。
②ヘアドライヤーの電源スイッチを入れ、温風を吹きかける。



⚠注意

ヘアドライヤーを離した直後の警報器は熱くなっています。
絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。
ライターなどの直火による加熱試験は、行わないでください。
破損の原因となります。

③赤スライド(火災警報)ランプが点灯し、火災警報音「ウーウーカンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください」が鳴ります。
④熱感知部周囲の温度が規定温度(約65℃)以下になると、赤スライド(火災警報)ランプが消灯します。

〈火災・CO・ガスもれ警報点検治具を用いて点検する場合〉

⚠警告

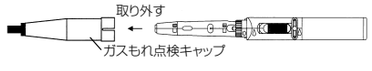
点検治具より吹き出されるガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。
直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

⚠注意

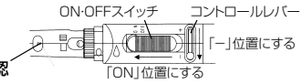
着火使用時には先端の樹脂部分は熱くなっています。絶対に触らないでください。
やけどをする恐れがあります。

ガス警報機能とCO警報機能の同時点検

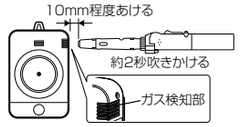
①ガスもれ点検キャップを本体から取り外す。



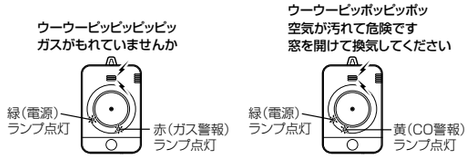
②コントロールレバーを「−」の位置に移動する。



③ON・OFFスイッチを前方にゆっくり押し上げ、「ON」の位置に移動する。
※着火確認窓より着火の確認をしてください。着火すると着火確認窓内が赤くなります。
(もし着火しなかった場合は、もう一度上記の操作を行ってください。)
※カチッと音がするまでしっかりと押し上げてください。
④本体の先端を警報器のガス検知部付近に近づけ、約2秒ガスを吹きかける。
※10秒以上ガスを吹きかけないでください。本体および警報器を破壊・損傷する恐れがあります。



⑤ON・OFFスイッチを離す。
※ガスが止まっていることを確認してください。
⑥赤(ガス警報)ランプが点灯し、ガス警報音「ウーウーピッピッピッピッ ガスがもれていませんか」が鳴り、黄(CO警報)ランプが点灯し、CO警報音「ウーウーピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」が鳴ります。
吹きかけのタイミングにより、ガス警報とCO警報の順番が逆になったり、交互に鳴る場合があります。



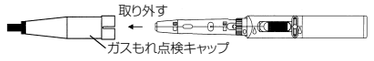
⑦ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯します。
※電源を入れて(電源プラグをコンセントに差し込んで)から4分間は、有電圧出力が一度出力されると、ガスがなくなり監視状態に戻っても出力が保持されます。この間に警報停止スイッチを押しても出力は解除されません。電源投入から4分間が経過しますと通常の状態に戻ります。
火災警報外部出力に保持機能はありません。また外部機器の作動を解除するときは、いったん電源プラグをコンセントから抜いてください。

おねがい

警報音が鳴りやまない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて再度「6-1 自動初期点検機能の確認」を行ってください。

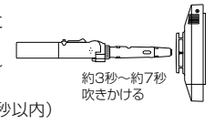
火災警報機能の点検

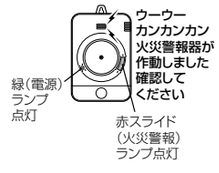
①ガスもれ点検キャップを本体から取り外す。



②コントロールレバーを「−」の位置に移動する。

③ON・OFFスイッチを前方にゆっくり押し上げ「ON」の位置に移動する。
※着火確認窓より着火の確認をしてください。着火すると着火確認窓内が赤くなります。
(もし着火しなかった場合は、もう一度上記の操作を行ってください。)
※カチッと音がするまでしっかりと押し上げてください。
④本体の先端を警報器の熱感知部に持っていき、熱風を吹きかける。
常温(20℃)での目安は約3秒～約7秒です。



※火災警報を発したら、すぐに(1秒以内)吹きかけを止めてください。また、10秒以上熱風を吹きかけないでください。警報器を破壊・損傷する恐れがあります。

⑤ON・OFFスイッチを離す。
※ガスが止まっていることを確認してください。
⑥赤スライド(火災警報)ランプが点灯し、火災警報音「ウーウーカンカンカン 火災警報器が作動しました 確認してください」が鳴ります。
⑦熱感知部周囲の温度が規定温度(約65℃)以下になると、赤スライド(火災警報)ランプが消灯します。